

令和5年度 横浜システム工学院専門学校

工業専門課程 1年次

シラバス

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

担当教員	実務経験
近藤 洋一	○

対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL						
科目名	コンピュータリテラシー a						
年次	1 年	開講期	第 1 期	区分	必修 □必修■選択□必選	授業時数	18 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】</p> <p>パソコンを使い方や日本語入力の基本に関する講義及び&amp;実習を行う。</p> <p>Officeソフト (Word) について講義及び実習を行う。</p> <p>【当期授業の到達目標】</p> <p>パソコンの操作、Officeソフト (Word) を使いこなせるようになる。また、学校生活において必須となるメール操作、クラスルームを使いこなせるようになる。</p>						
授業概要	コンピュータを使用にて、ビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式を主としたコースになる。						
授業の 運営方法	対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。						
担当教員 からの メッセージ	各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書くことにウエイトを置く。 ノート持参要。						
理解度 テスト、課題	毎回演習問題を行い、4週目に理解度確認小テスト・課題 実施予定。 また、Google Formsにて重要事項に関する確認問題の解答提出要(評価シート使用)						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験にて行う						
成績評価の 方法・基準	本校の成績評価基準及び評価シートに基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・授業への取組み(授業態度や演習への姿勢)10%・理解度テスト40% ・理解度テスト50% (筆記試験にて行う)						
オフィス アワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。						
教材	なし						
参考書	留学生のためのWord入門 榎村 麻里子, 松下 孝太郎, 津木 裕子, 平井 智子, 山本 光, 両澤 敦子 共著 技術評論社						

科目名	コンピュータリテラシー a	担当教員	近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス	事前学習型 授業	
2週目	パソコンの操作と日本語入力の基本、メールの使い方 フォルダーやファイル操作の基本 / タイピング練習 (mikatype 他)	反転授業	ワードの基本事項を身に付ける
3週目	Wordの基本、Word入力操作の基本、 文字と段落書式、タイピング練習		
4週目	箇条書き 表の作成 タイピング練習		
5週目	グラフィック要素_1: 図形、ワードアート タイピング練習	プレゼンテーション	
6週目	グラフィック要素_2: 画像挿入と編集 タイピング練習	プレゼンテーション	ワードにおいてビジュアル的な表現形式を学ぶ
7週目	見栄えを良くする機能: SmartArt紹介 タイピング練習	双方向 アンケート	
8週目	文書作成の応用、復習	アクティブラーニング	最新・珍しいワード機能・知識を学ぶ
	定期試験		
9週目	テストを実施後、学習目標の達成状況を確認し、フォロー実施		
<p>AL形態の内容</p> <p>事前学習型授業：教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もとづく演習を行わせる方法。</p> <p>反転授業：動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。</p> <p>双方向アンケート：授業中にIT機器やクリッカー、あるいはコメント ペーパーなどを利用して、教員と学生による双方向的な対話型を行わせる方法。</p> <p>アクティブラーニング：自分自身にてICT活用し、学修し、他の学生との「考え・学び」のコミュニケーションを図る</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

	担当教員		実務経験				
	近藤 洋一		○				
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL						
科目名	コンピュータリテラシー b						
年次	1 年	開講期	第 2 期	区分	必修□ 選択■ 必修□	授業時数	18 時間
授業の到達目標	<p>(さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【最終期授業の到達目標】 パソコンを使い方や日本語入力の基本に関する講義及び&amp;実習を行う。 Officeソフト (Excel) について講義及び実習を行う。 【当期授業の到達目標】 パソコンの操作、Officeソフト (Excel) を使いこなせるようになる。</p>						
授業概要	<p>コンピュータを使用にて、ビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式を主としたコースになる。</p>						
授業の運営方法	<p>対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。</p>						
担当教員からのメッセージ	<p>各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書くことにウエイトを置く。 ノート持参要。</p>						
理解度テスト、課題	<p>毎回演習問題を行い、4週目に課題実施予定。 また、Google Formsにて重要事項に関する確認問題の解答提出要(評価シート使用)</p>						
定期試験	<p>【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験にて行う</p>						
成績評価の方法・基準	<p>本校の成績評価基準及び評価シートに基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・授業への取り組み(授業態度や演習への姿勢)10%・理解度テスト40% ・理解度テスト50% (筆記試験にて行う)</p>						
オフィスアワー	<p>放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。</p>						
教材	なし						
参考書	<p>留学生のためのExcel入門 技術評論社 榎村 麻里子, 松下 孝太郎, 津木 裕子, 平井 智子, 山本 光, 両澤 敦子 共著 技術評論社</p>						

科目名	コンピュータリテラシー b	担当教員	近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ガイドランス/Excelの基本、セル操作の基本、セルの編集 課題表Excel表の作成	事前学習型 授業	Excelの基本事項を身に付ける
2週目	表の編集、式と計算の基本 課題Excel表の作成	反転授業	
3週目	相対参照・絶対参照・複合参照、表の式と計算 課題Excel表の作成		
4週目	グラフ機能、棒グラフ、折れ線グラフ、ヒストグラム、箱ひげ図 課題Excel表の作成		
5週目	シート間の参照と画像・図形の挿入、関数と数式の基本 課題Excel表の作成	プレゼンテーション	Excelにおいてビジュアル的な表現形式を学ぶ
6週目	条件分岐と論理式、データ抽出、データ並び替え 課題Excel表の作成	プレゼンテーション	
7週目	データ分析	双方向 アンケート	
8週目	まとめ 定期試験(理解度テスト)		最新・珍しいExcel機能・ 知識を学ぶ
9週目	テストを実施後、学習目標の達成状況を確認し、フォロー実施		
<p>AL形態の内容</p> <p>事前 学習型 授業：教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もとづく演習を行わせる方法。</p> <p>反転 授業：動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。</p> <p>双方向 アンケート：授業中にIT機器やクリッカー、あるいはコメント ペーパーなどを利用して、教員と学生による双方向的な対話型を行わせる方法。</p> <p>プレゼンテーション：学生が資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

		担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
		近藤 洋一		○	
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI ■GS □GB □IL				
科目名 かものめい	コンピュータリテラシー c				
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 3 期 だい き	区分 くぶん	必修 <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必選 <input type="checkbox"/>
				授業時数 じゅぎょうじすう	18 時間 じかん
授業 授業 到達目標 じゅぎょう とうたつもくひょう	<p>【最終期授業の到達目標】 パソコンを使い方や日本語入力の基本に関する講義及び&amp;実習を行う。</p> <p>Officeソフト (PowerPoint) について講義及び実習を行う。</p> <p>【当期授業の到達目標】 パソコンの操作、Officeソフト (PowerPoint) を使いこなせるようになる。また、学校生活において必須となるメール操作、クラスルームを使いこなせるようになる。</p>				
授業概要 じゅぎょうがいよう	他の授業・卒業制作発表会にて、効果的なプレゼンテーションスキルを身に付ける授業提供				
授業の 運営方法 じゅぎょう うんえいほうほう	対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。				
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん	各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書くことにウエイトを置く。 ノート持参要。				
理解度 テスト 課題 りかいど	毎回 演習問題を行い、4週目に課題 実施予定。 また、Google Formsにて重要事項に関する確認問題の解答提出要(評価シート使用)				
定期試験 ていきしけん	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 理解度テスト、筆記試験にて行う。				
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	本校の成績 評価 基準 及び 評価シートに基づき、到達目標 達成度を次の方法で評価する。 ・授業への取組み(授業態度や演習への姿勢)10%・理解度テスト40% ・理解度テスト50%				
オフィス アワー おふいす	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。				
教材 きょうざい	なし				
参考書 さんこうしょ	これからはじめる パワーポイントの本[PowerPoint 2016/2013対応版] 技術評論社				

科目名	コンピュータリテラシー c	担当教員	近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	PowerPointの基本操作 / 課題表PowerPointスライドの作成	事前学習型授業	
2週目	PowerPointのスライド作成(スライドの追加、変更、削除) 課題表PowerPointスライドの作成		PowerPointのスライド作成・ 基本知識習得
3週目	PowerPointのスライドデザインの変更 課題表PowerPointスライドの作成	反転授業	
4週目	表やグラフを作る 課題表PowerPointスライドの作成		
5週目	スライドに入れる図を作る 課題表PowerPointスライドの作成		視覚化・ビジュアル化を図り、 分かりやすいスライド作成スキルの習得
6週目	スライドに入れるイラスト、写真、動画の操作 課題表PowerPointスライドの作成	双方向アンケート	
7週目	プレゼンテーション_1	プレゼンテーション	作成したPowerPointを発表する
8週目	プレゼンテーション_2	プレゼンテーション	
	定期試験		
9週目	テストを実施後、学習目標の達成状況を確認し、フォロー実施		
<p>AL形態の内容</p> <p>事前学習型授業：教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もとづく演習を行わせる方法。</p> <p>反転授業：動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。</p> <p>双方向アンケート：授業中にIT機器やクリッカー、あるいはコメントペーパーなどを利用して、教員と学生による双方向的な対話型を行わせる方法。</p> <p>プレゼンテーション：学生が資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

		たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験			
		近藤 洋一		○			
たいしょうがつか 対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL						
かまくめい 科目名	コンピュータリテラシー d						
ねんじ 年次	ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい 第 4 期	くぶん 区分	ひつぱう 必修	せんたく 選択	ひつぱう 必修
					授業時数		じかん 18 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	Microsoft Office あぶりけーしょんそふと word Excel PowerPoint ちしき すきる ペース Microsoft Officeアプリケーションソフト(word, Excel, PowerPoint)知識・スキルをベース きほんてき ひつきしけんないよう Google workspace どきゅめんと すぶれっどしーと すらいど (基本的に筆記試験内容)にGoogle workspace(ドキュメント、スプレッドシート、スライド)の つか かた しゅう 使用方を修得する。 コンピュータリテラシーc までの 学習内容 (定期試験) の問題を Google Workspace (ドキュメント、スプレッドシート、スライド) で作成することを実際に試みて、違いを体験 し、理解・把握する。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	りべんせいにおいて、非常に有効なツール：Google Workspace使用を分かりやすく修得を図る為 に、主にビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式としたコースになる。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	たいめんじゅぎょう よてい ぼあい たいめん おんらいん へいよう 対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう ぼいんと ぼんしよ ための ーと かならず ぼんしよじこう か 各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書く う えい と お ことにウエイトを置く。 じさんよう ノート持参要。						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ	かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう ぼいんと ぼんしよ ための ーと かならず ぼんしよじこう か 各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書く う えい と お ことにウエイトを置く。 じさんよう ノート持参要。						
りかいど 理解度 てすと かだい テスト、課題	まいかい えんしゅうもんだい おこない 4しゅうめ かだい じっしよてい 毎回 演習問題を行い、4週目に課題 実施予定。 Google Forms じゅうようじこう かんして かくにんもんだい かいとうていしゅつよう ひょうか-しーと しよう また、Google Formsにて重要事項に関する確認問題の解答提出要(評価シート使用)						
ていきしけん 定期試験	(じゅけんしかく) しゅつせきりつ 70%いじょう かくせい 【受験資格】出席率70%以上の学生 (しけんほうほう) ひつきしけん おこなう 【試験方法】筆記試験にて行う。						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゆん 方法・基準	ほんこう せいせき ひょうか きじゆん およ ひょうか しーと もと とうたつもくひょう たつせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績 評価 基準 及び 評価シートに基づき、到達目標 達成度を次の方法で評価す る。 じゅぎょう とりく じゅぎょうたいど えんしゅう しせい 10% りかいど てすと 40% ・ 授業への取組み(授業態度や演習への姿勢10%・理解度テスト40%) りかいど てすと 50% ・ 理解度テスト50%						
オフィス アワー	ほうかご たいおうかのう めーる じぜん よやく しょういん う 放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書	してい おお いんたーねっとにて わかりやすいサイト たんさく あくていぶらーにんぐ じっし 指定なし。大いにインターネットにて分かりやすいサイトの探索(アクティブラーニング実施)						



科目名	コンピュータリテラシー d	担当教員	近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ガイドランス / Googleアプリケーションソフトの使い方を学習してMicrosoft Officeアプリケーションソフトとの違いを理解する	事前学習型 授業	
2週目	Wordの知識をベースに実際にGoogleドキュメントを使ってみる		
3週目	WordとGoogleドキュメントを使って、違いを知る		コンピュータリテラシーa～cにて修得した知識・定期試験
4週目	Excel知識をベースに実際にGoogleスプレッドシートを使いながら学んで行く(画面のメニューバー(タブ)、ツールバーの使い方に慣れる)	反転授業	Google workspaceのドキュメント、スプレッドシート、スライドの
5週目	Excelとの違いを理解する		使い方を修得する
6週目	PowerPointの知識をベースに実際にGoogleスライドを使いながら学んで行く		
7週目	Googleスライドのツールバーにおける主な機能を修得する PowerPointとの違いを理解する	プレゼンテーション	
8週目	定期試験		
9週目	テストを実施後、学習目標の達成状況を確認し、フォロー実施		
<p>AL形態の内容</p> <p>事前学習型授業：教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もとづく演習を行わせる方法。</p> <p>反転授業：動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。</p> <p>プレゼンテーション：学生が資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん
				渡部 雄三	○
				影山 正幸	○
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI ■GS □GB □IL			和田 千詠美	○
科目名 かもくめい	IT基礎 きそ			中村 靖	○
年次 ねんじ	1年 1ねん	開講期 かいこうき	第1期 だい き	区分 くぶん	授業時数 じゅぎょうじすう
				必修 ひつしゅう	選択 せんたく
				必修 ■必修	選択 □選択
					授業時数 36 時間 じかん
授業 とうたつむくひょう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 コンピュータの基礎知識を身につける。基本情報技術者試験のテクノロジ系過去問題を解くことができるようになる。</p>				
授業概要 じゅぎょうがいよう	IT系実務経験者により、コンピュータの基礎理論などテクノロジ系について指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。				
授業の 運営方法 じゅぎょう うんえいほうほう	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。				
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん からの めっせーじ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事を する上ですぐに必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知 識となりますので、体系的に理解しましょう。				
理解度 テスト りかいど テスト	授業毎に、理解度テストを実施。				
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）				
成績評価 の方法・基準 せいせきひょうか ほうほう きじゆん	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%				
オフィス アワー おふいす あわー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材 きょうざい	なし				
参考書 さんこうしょ	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ <a href="https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html">https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html</a>				

かもくめい 科目名	きそ IT基礎	たんとくきょういん 担当教員	渡部・影山・和田・中村
じゅぎょう けい かく 授 業 計 画			
かいすう 回数	じゅぎょうないよう 授業内容	けいたい ALの形態	じゅぎょう ねらい 授業の狙い
1しゅうめ 1週目	がいだんす きそりろん ガイダンス 基礎理論 (2進数/シフト演算)	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	
2しゅうめ 2週目	基礎理論 (集合と論理演算/確率統計)	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	こんぴゅーた べーす コンピュータのベースと
3しゅうめ 3週目	基礎理論 (その他の応用数学/情報に関する理論)	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	なる 基礎技術とシステム 構成を学習し、知識と
4しゅうめ 4週目	基礎理論 (通信に関する理論/計測・制御に関する理論)	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	りかい ていちゃく はかる 理解の定着を図る。
5しゅうめ 5週目	コンピュータ構成要素 (コンピュータ構成と動作/プロセスの性能と高速化技術)	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	
6しゅうめ 6週目	コンピュータ構成要素 (メモリ/バス/入出力/補助記憶)	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	コンピュータを構成する 基本要素の知識と理解の
7しゅうめ 7週目	システムの構成要素	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	ていちゃく はかる 定着を図る
8しゅうめ 8週目	ふくしゅうおよびていきしけん 復習及び定期試験		てく の ろ じけい ちしき テクノロジー系の知識と
9しゅうめ 9週目	ていきしけんないよう かいせつ 定期試験内容の解説		りかい かくにん 理解を確認する
けいたい ないよう AL形態の内容			
<p>じぜんがくしゅうがたじゅぎょう じゅぎょう まなぶぶんや じゅうようようご かんれん か こもんだいなど じぜん ていじ WEB しりょう よしゅう 事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して 授業に臨む。</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員	実務経験		
				渡部 雄三	○		
				影山 正幸	○		
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL			和田 千詠美	○		
科目名	コンピュータシステム技術			中村 靖	○		
年次	1年	開講期	第1期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	36時間
授業到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 ソフトウェア/ハードウェアの知識と技術要素の知識をつける。基本情報技術者試験のテクノロジー系過去問題を解くことができるようになる。</p>						
授業概要	IT系実務経験者によりソフトウェア/ハードウェアの知識と技術要素などテクノロジー系について指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。						
授業の運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。						
担当教員からのメッセージ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をやる上で必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。						
理解度テスト	授業毎に、理解度テストを実施。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	なし						
参考書	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ <a href="https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html">https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html</a>						

科目名	コンピュータシステム技術	担当教員	渡部・影山・和田・中村
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1しゅうめ 1週目	ガイダンス ソフトウェア (種類と特徴)	事前学習型 授業	
2しゅうめ 2週目	ソフトウェア (オペレーティングシステム)	事前学習型 授業	コンピュータのベースとなる基礎技術とシステム
3しゅうめ 3週目	ソフトウェア (ファイルシステム/開発ツール/OSS)	事前学習型 授業	構成を学習し、知識と理解の定着を図る。
4しゅうめ 4週目	ハードウェアと論理回路	事前学習型 授業	
5しゅうめ 5週目	ヒューマンインタフェース/マルチメディア	事前学習型 授業	
6しゅうめ 6週目	データベース	事前学習型 授業	コンピュータを構成する基本要素の知識と理解の定着を図る
7しゅうめ 7週目	データベース/総復習	事前学習型 授業	
8しゅうめ 8週目	復習及び定期試験		テクノロジー系の知識と理解を確認する
9しゅうめ 9週目	定期試験内容の解説		
AL形態の内容			
<p>事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

	担当教員	実務経験						
	渡部 雄三	○						
	影山 正幸	○						
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL	和田 千詠美						
科目名	開発技術とマネジメント	中村 靖						
年次	1 ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい き 第 2 期	くぶん 区分	■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	36	じかん 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 開発に関する技術やマネジメントについての知識をつける。基本情報技術者試験のテクノロジ系/マネジメント系の過去問題を解くことができるようになる。</p>							
授業概要	IT系実務経験者により開発技術とマネジメント手法などについて指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。							
授業の 運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。							
担当教員 からの メッセージ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をやる上で必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。							
理解度 テスト	授業毎に、理解度テストを実施。							
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）							
成績評価 の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%							
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。							
教材	なし							
参考書	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ <a href="https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html">https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html</a>							

科目名	開発技術とマネジメント	担当教員	渡部・影山・和田・中村
授 業 計 画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1しゅうめ 1週目	ガイダンス システム開発技術（開発プロセス）	事前学習型 授業	
2しゅうめ 2週目	設計（様々な設計手法）	事前学習型 授業	コンピュータのベースと なる基礎技術とシステム
3しゅうめ 3週目	設計（様々な設計手法②）	事前学習型 授業	構成を学習し、知識と 理解の定着を図る。
4しゅうめ 4週目	構築とテスト（実装・構築とテスト）	事前学習型 授業	
5しゅうめ 5週目	ソフトウェア開発管理技術/プロジェクトマネジメント	事前学習型 授業	
6しゅうめ 6週目	プロジェクトマネジメント	事前学習型 授業	コンピュータを構成する 基本要素の知識と理解の 定着を図る
7しゅうめ 7週目	サービスマネジメント/システム監査	事前学習型 授業	
8しゅうめ 8週目	復習及び定期試験		テクノロジ系の知識と 理解を確認する
9しゅうめ 9週目	定期試験内容の解説		
AL形態の内容			
<p>事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

		担当教員	実務経験
		渡部 雄三	○
		影山 正幸	○
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL	和田 千詠美	○
科目名	ネットワークセキュリティ	中村 靖	○
年次	1 ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい き 第 2 期
		くぶん 区分	■必修□選択□必選
		じゅぎょうじすう 授業時数	36 じかん 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 ネットワークとセキュリティについての知識をつける。基本情報技術者試験のテクノロジ系の過去問題を解くことができるようになる。</p>		
授業概要	IT系実務経験者によりネットワークとセキュリティ分野について指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。		
授業の 運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。		
担当教員 からの メッセージ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をやる上で必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。		
理解度 テスト	授業毎に、理解度テストを実施。		
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）		
成績評価 の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%		
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。		
教材	なし		
参考書	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ <a href="https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html">https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html</a>		



科目名	ネットワークセキュリティ	担当教員	渡部・影山・和田・中村
授 業 計 画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1しゅうめ 1週目	が い だ ん す ガイダンス ネットワーク（基本技術）	じ ぜ ん が く し ゅ う が た 事前学習型 授 業	ネットワークについての知識や計算問題を理解し、問題を解けるようになる
2しゅうめ 2週目	ネットワーク（データ通信/ネットワーク管理/プロトコル）	じ ぜ ん が く し ゅ う が た 事前学習型 授 業	
3しゅうめ 3週目	ネットワーク（応用的な分野） セキュリティ（情報セキュリティ）	じ ぜ ん が く し ゅ う が た 事前学習型 授 業	
4しゅうめ 4週目	セキュリティ（情報セキュリティ）	じ ぜ ん が く し ゅ う が た 事前学習型 授 業	セキュリティに対する意識の向上/知識の獲得/問題への対応力をつける
5しゅうめ 5週目	セキュリティ（管理と評価）	じ ぜ ん が く し ゅ う が た 事前学習型 授 業	
6しゅうめ 6週目	セキュリティ（対策や実装技術）	じ ぜ ん が く し ゅ う が た 事前学習型 授 業	
7しゅうめ 7週目	総復習	じ ぜ ん が く し ゅ う が た 事前学習型 授 業	自分の弱点などを見つけ克服する
8しゅうめ 8週目	ふくしゅうおよび定期試験		てく の ろ じ け い の ち し き テクノロジー系の知識と理解を確認する
9しゅうめ 9週目	ていきしけんないよう かいせつ 定期試験内容の解説		
<p>AL形態の内容</p> <p>事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

	担当教員	実務経験					
	渡部 雄三	○					
	影山 正幸	○					
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL	和田 千詠美					
科目名	システム戦略とマネジメント	中村 靖					
年次	1年	開講期	第3期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	36時間
授業到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 企業などのシステム戦略についての知識をつける。基本情報技術者試験のマネジメント系の過去問題を解くことができるようになる。</p>						
授業概要	IT系実務経験者によりシステム戦略・マネジメントについて指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。						
授業の運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。						
担当教員からのメッセージ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をやる上で必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。						
理解度テスト	授業毎に、理解度テストを実施。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	なし						
参考書	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ <a href="https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html">https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html</a>						

科目名	システム戦略とマネジメント	担当教員	渡部・影山・和田・中村
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1しゅうめ 1週目	ガイダンス システム戦略 (情報システム戦略と業務プロセス)	事前学習型 授業	
2しゅうめ 2週目	システム戦略 (ソリューションビジネス/システムの活用促進・評価)	事前学習型 授業	ネットワークについての知識や計算問題を理解し、問題を解けるようになる
3しゅうめ 3週目	経営戦略 (経営戦略マネジメント) 経営戦略・経営分析の手法	事前学習型 授業	
4しゅうめ 4週目	経営戦略 (経営戦略マネジメント) マーケティング・ビジネス戦略と経営管理システム	事前学習型 授業	
5しゅうめ 5週目	ビジネスインダストリ (ビジネスシステム・エンジニアリングシステム)	事前学習型 授業	セキュリティに対する意識の向上/知識の獲得/問題への対応力をつける
6しゅうめ 6週目	ビジネスインダストリ (e-ビジネス・民生機器と産業機器)	事前学習型 授業	
7しゅうめ 7週目	総復習	事前学習型 授業	自分の弱点などを見つけ克服する
8しゅうめ 8週目	復習及び定期試験		テクノロジー系の知識と理解を確認する
9しゅうめ 9週目	定期試験内容の解説		
<p>AL形態の内容</p> <p>事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

		担当教員	実務経験				
		渡部 雄三	○				
		影山 正幸	○				
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL	和田 千詠美	○				
科目名	企業と戦略	中村 靖	○				
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	36 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 企業と戦略・法務についての知識をつける。基本情報技術者試験のマネジメント系の過去問題を解くことができるようになる。</p>						
授業概要	IT系実務経験者によりシステム戦略・マネジメントについて指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。						
授業の 運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。						
担当教員 からの メッセージ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をやる上で必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。						
理解度 テスト	授業毎に、理解度テストを実施。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）						
成績評価 の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	なし						
参考書	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ <a href="https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html">https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html</a>						

かもくめい 科目名	きぎょう せんりやく 企業と戦略	たんとくきょういん 担当教員	渡部・影山・和田・中村
じゅ ぎょう けい かく 授 業 計 画			
かいすう 回数	じゅぎょうないよう 授業内容	けいたい ALの形態	じゅぎょう ねらい 授業の狙い
1しゅうめ 1週目	がいだんす ガイダンス 企業活動（経営・組織論）	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業で利用される組織や企業活動についての知識を獲得する。</li> <li>IT系資格の出題に対応できる力をみにつける</li> </ul>
2しゅうめ 2週目	企業活動（OR・IEと企業分析）	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	
3しゅうめ 3週目	企業活動（品質管理とQC7つ道具）	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	
4しゅうめ 4週目	企業活動（企業活動と財務）	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	
5しゅうめ 5週目	法務（知的財産権・労働関連/取引関連法規）	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	企業などで遵守すべき法律などを学び、ITパスポートや基本情報技術者試験に対応できるようになる。
6しゅうめ 6週目	法務（セキュリティと関する法規とガイドライン）	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	
7しゅうめ 7週目	法務（企業の責任と標準化）	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	
8しゅうめ 8週目	ふくしゅうおよびていきしけん 復習及び定期試験		マネジメント系の知識と理解を確認する
9しゅうめ 9週目	ていきしけんないよう かいせつ 定期試験内容の解説		
けいたい ないよう AL形態の内容			
じぜんがくしゅうがたじゅぎょう じゅぎょう まなぶぶんや じゅうようようご かんれん か こもんだいなど じぜん ていじ WEB しりょう よしゅう 事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				渡部 雄三	○
				影山 正幸	○
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL			和田 千詠美	○
科目名	基本情報演習			中村 靖	○
年次	1 年	開講期	第 4 期	区分	必修口選択口必選 授業時数 72 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力の基本を身に着け、高度IT人材として活躍できるようになる。</p> <p>【当期授業の到達目標】 過去問題を繰り返し実施。基本情報技術者試験B試験の合格点を取れるようになる。</p>				
授業概要	<p>IT系実務経験者が、高度 IT 人材となるために必要な基本的知識・技能・活用能力を教授する。B試験問題のサンプル、アルゴリズムの過去問を実際に解きながら、問題のポイントを理解し、必要とされる応用力を獲得する。</p>				
授業の 運営方法	<p>B試験問題を事前に提示するので、WEB、資料などを調べ予習して授業に臨みます。授業では、参考資料等を用い、その過去の午後問題の考え方、解き方、アルゴリズムなどの解説を行います。提示された問題については、各自、回答を準備して授業に出席してください。</p>				
担当教員 からの メッセージ	<p>当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事を上ですぐに必要な知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上でも使いますので、きちんと体系的に理解するようにしてください。</p>				
理解度 テスト	<p>授業毎に、理解度テストを実施する。</p>				
定期試験	<p>【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題や授業内容より出題）</p>				
成績評価 の 方法・基準	<p>本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 50%</li> <li>平常点（授業態度や演習への取り組み）10%</li> <li>理解度テスト 40%</li> </ul>				
オフィス アワー	<p>放課後、メールベースあるいは対面にて対応します。但し、事前に都合を確認のこと。</p>				
教材	<p>なし</p>				
参考書	<p>IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ <a href="https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html">https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html</a></p>				

かもくめい 科目名	きほんじょうほうえんしゅう 基本情報演習	たんとくぎょういん 担当教員	渡部・影山・和田・中村
じゅぎょうけいかく 授業計画			
かいすう 回数	じゅぎょうないよう 授業内容	けいたい ALの形態	じゅぎょうねらい 授業の狙い
1しゅうめ 1週目	あるごりずむ きほん きごう/ながれず/しより ぶろぐらむながれず/ アルゴリズムの基本(記号/流れ図/処理とプログラム流れ図/ 構造化) 情報セキュリティ午後問題	はんでんじゅぎょう 反転授業	あるごりずむしより きほん アルゴリズム処理の基本 ひょうげん りかい と表現を理解し、実 あるごりずむ てきよう アルゴリズムに適用でき るようになる。 情報セキュリティ分野の 問題に慣れる
2しゅうめ 2週目	ぎじげんご きそ きじゅつけいしき / しより 疑似言語の基礎(記述形式 / 処理) 情報セキュリティ対策(FE午後問情報セキュリティ分野)	はんでんじゅぎょう 反転授業	
3しゅうめ 3週目	アルゴリズム対策(FE過去問アルゴリズム分野) 情報セキュリティ対策(FE午後問情報セキュリティ分野)	はんでんじゅぎょう 反転授業	
4しゅうめ 4週目	アルゴリズム対策(FE過去問アルゴリズム分野) 情報セキュリティ対策(FE午後問情報セキュリティ分野)	はんでんじゅぎょう 反転授業	
5しゅうめ 5週目	アルゴリズム対策(FE過去問アルゴリズム分野) 情報セキュリティ対策(FE午後問情報セキュリティ分野)	はんでんじゅぎょう 反転授業	
6しゅうめ 6週目	アルゴリズム対策(FE過去問アルゴリズム分野) 情報セキュリティ対策(FE午後問情報セキュリティ分野)	はんでんじゅぎょう 反転授業	
7しゅうめ 7週目	アルゴリズム対策(FE過去問アルゴリズム分野) 情報セキュリティ対策(FE午後問情報セキュリティ分野)	はんでんじゅぎょう 反転授業	
8しゅうめ 8週目	ふくしゅうおよ ていきしけん 復習及び定期試験 ていきしけんないよう かいせつ 定期試験内容の解説	はんでんじゅぎょう 反転授業	あるごりずむもんだい じっさい アルゴリズム問題を実際 に解く
9しゅうめ 9週目	もぎしけん 模擬試験		じつもんだいけいしき しこう 実問題形式で試行する
<p>けいたい ないよう AL形態の内容</p> <p>はんでんがくしゅう かんれん か こ こ もんだい じぜん ていじ かくじ もんだい じぜん といて 反転学習：関連する過去の午後問題を事前に提示し、各自、問題を事前に解いてくること じゅぎょう かいとう がくせい せつめい ふくめてしんこう 授業は、解答を学生が説明することも含めて進行する。</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

	担当教員		実務経験	
	富永 英世		○	
	影山 正幸		○	
対象学科	■IG □AI □GS □GB □IL			
科目名	アルゴリズム論 a			
年次	1 年	開講期	第 1 期	区分
				■必修 □選択 □必選
				授業時数
				18 時間
授業到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】</p> <p>プログラミングを学ぶうえで必要なアルゴリズムを理解する。</p> <p>【当期授業の到達目標】</p> <p>アルゴリズムを理解し、フローチャートの使い方を理解することで、基本的なアルゴリズムをフローチャートで作成できるようになる。</p> <p>例題からアルゴリズムを学習し、応用問題が解けるようになる。</p>			
授業概要	アルゴリズムとは何かを理解し、基本的なアルゴリズムをフローチャート（流れ図）で作成する。			
授業の運営方法	アルゴリズムを解説した後、実際にフローチャートで作成する。例題でフローチャートの作成練習をした後に、練習問題でどれだけ理解したかを確認しながらフローチャートを作成し、応用力を身につける。			
担当教員からのメッセージ	プログラミングする上で、アルゴリズムは欠かせません。頭の中の考えをフローチャートで表現する力が必ず必要となります。開始から終了まで効率よく実行させるプログラムの設計書を作成するものと同じです。効率のよいプログラムを作成できるようにしっかり学習しましょう。			
理解度テスト、課題（レポート等）	毎回理解度テストを実施する。定期試験は「筆記試験」または「フォームによる試験」とする。必要に応じて授業で取り組んだ課題の提出を求める。			
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 「筆記試験」または「フォームによる試験」			
成績評価の方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。			
オフィスアワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。			
教材	クラスルームに配布する電子テキスト			
参考書	基本情報技術者試験に関連するテキスト			



科目名	アルゴリズム論 a	担当教員	富永・影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	アルゴリズムとは データ構造 (変数、配列、リスト)	事前学習型	アルゴリズムを理解し、 フローチャートを作成できる ようにする。
2週目	データ構造 (スタック、キュー、木構造)		
3週目	フローチャートの書き方 フローチャートの構造 (順次構造とは)		
4週目	分岐構造とは (比較演算子、単一分岐、多重分岐)		
5週目	繰り返し構造とは (前判定処理、後判定処理) ループ記号の書き方		
6週目	基本アルゴリズム (線形探索法・2分探索法)		
7週目	総復習		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
<p>事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

担当教員	実務経験
富永 英世	○
影山 正幸	○

対象学科	■IG □AI □GS □GB □IL						
科目名	アルゴリズム論 b						
年次	1 年	開講期	第 2 期	区分	必修 選択 必選	授業時数	18 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】</p> <p>プログラミングを学ぶうえで必要なアルゴリズムを理解する。</p> <p>【当期授業の到達目標】</p> <p>様々なアルゴリズムをフローチャートで作成できるようになる。</p> <p>例題からアルゴリズムを学習し、応用問題が解けるようになる。</p>						
授業概要	アルゴリズムとは何かを理解し、基本的なアルゴリズムをフローチャート（流れ図）で作成する。						
授業の 運営方法	アルゴリズムを解説した後、実際にフローチャートで作成する。 例題でフローチャートの作成練習をした後に、練習問題でどれだけ理解したかを確認しながらフローチャートを作成し、応用力を身につける。						
担当教員 からの メッセージ	プログラミングする上で、アルゴリズムは欠かせません。 頭の中の考えをフローチャートで表現する力が必ず必要となります。 開始から終了まで効率よく実行させるプログラムの設計書を作成するものと同じです。 効率のよいプログラムを作成できるようにしっかり学習しましょう。						
理解度 テスト、課題 (レポート等)	毎回理解度テストを実施する。 定期試験は「筆記試験」または「フォームによる試験」とする。 必要に応じて授業で取り組んだ課題の提出を求める。						
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の 方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オフィス アワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書	基本情報技術者試験に関連するテキスト						

科目名	アルゴリズム論 b	担当教員	富永・影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	計算量について ハッシュ探索法、基本選択法（選択ソート）	事前学習型	アルゴリズムを理解し、 フローチャートを作成できる ようにする。
2週目	ヒープソート、基本交換法（バブルソート） シェーカーソート		
3週目	基本挿入法（挿入ソート）		
4週目	クイックソート		
5週目	マージソート		
6週目	文字列処理（文字列照合）		
7週目	総復習		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
<p>事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

担当教員	実務経験
富永 英世	○
影山 正幸	○

対象学科	■IG □AI □GS □GB □IL						
科目名	アルゴリズム論 c						
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	必修 選択 必選	授業時数	18 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 プログラミングを学ぶうえで必要なアルゴリズムを理解する。</p> <p>【当期授業の到達目標】 様々なアルゴリズムをフローチャートで作成できるようになる。 例題からアルゴリズムを学習し、応用問題が解けるようになる。</p>						
授業概要	アルゴリズムとは何かを理解し、基本的なアルゴリズムをフローチャート（流れ図）と疑似言語で作成する。						
授業の 運営方法	アルゴリズムを解説した後に、実際にフローチャート・疑似言語で作成する。 例題でフローチャート・疑似言語の作成練習をした後に、練習問題でどれだけ理解したかを 確認しながらフローチャート・疑似言語を作成し、応用力を身につける。						
担当教員 からの メッセージ	プログラミングする上で、アルゴリズムは欠かせません。 頭の中の考えをフローチャート・疑似言語で表現する力が必ず必要となります。 開始から終了まで効率よく実行させるプログラムの設計書を作成するものと同じです。 効率のよいプログラムを作成できるようにしっかり学習しましょう。						
理解度 テスト、課題 など (レポート等)	毎回理解度テストを実施する。 定期試験は「筆記試験」または「フォームによる試験」とする。 必要に応じて授業で取り組んだ課題の提出を求める。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の 方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オフィス アワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書	基本情報技術者試験に関連するテキスト						

科目名	アルゴリズム論 c	担当教員	富永・影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	グラフ処理、経路探索、最短経路探索	事前学習型	アルゴリズムを理解し、フローチャートや疑似言語を作成できるようにする。
2週目	数値処理、ファイル処理		
3週目	疑似言語について		
4週目	疑似言語で探索		
5週目	疑似言語でソート		
6週目	疑似言語で文字照合		
7週目	総復習		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

担当教員	実務経験
富永 英世	○
影山 正幸	○

対象学科	■IG □AI □GS □GB □IL						
科目名	アルゴリズム論 d						
年次	1 年	開講期	第 4 期	区分	必修 ■必修 □選択 □必選	授業時数	18 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 プログラミングを学ぶうえで必要なアルゴリズムを理解する。</p> <p>【当期授業の到達目標】 基本情報技術者試験の合格基準までレベルを上げる。</p>						
授業概要	アルゴリズムとは何かを理解し、基本的なアルゴリズムをフローチャート（流れ図）と疑似言語で作成する。						
授業の 運営方法	アルゴリズムを解説した後に、実際にフローチャート・疑似言語で作成する。 例題でフローチャート・疑似言語の作成練習をした後に、練習問題でどれだけ理解したかを確認しながらフローチャート・疑似言語を作成し、応用力を身につける。						
担当教員 からの メッセージ	プログラミングする上で、アルゴリズムは欠かせません。 頭の中の考えをフローチャート・疑似言語で表現する力が必ず必要となります。 開始から終了まで効率よく実行させるプログラムの設計書を作成するものと同じです。 効率のよいプログラムを作成できるようにしっかり学習しましょう。						
理解度 テスト、課題 (レポート等)	毎回理解度テストを実施する。 定期試験は「筆記試験」または「フォームによる試験」とする。 必要に応じて授業で取り組んだ課題の提出を求める。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の 方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オフィス アワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書	基本情報技術者試験に関連するテキスト						

科目名	アルゴリズム論 d	担当教員	富永・影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	基本情報技術者試験 (過去問) 解答と解説	事前学習型	アルゴリズムを理解し、フローチャートや疑似言語を作成できるようにする。
2週目	基本情報技術者試験 (過去問) 解答と解説		
3週目	基本情報技術者試験 (過去問) 解答と解説		
4週目	基本情報技術者試験 (過去問) 解答と解説		
5週目	基本情報技術者試験 (過去問) 解答と解説		
6週目	基本情報技術者試験 (過去問) 解答と解説		
7週目	総復習		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
<p>事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

			担当教員 田中 正彦	実務経験 ○
対象学科	□IG ■AI □GS □GB □IL			
科目名	データサイエンス基礎 a			
年次	1 年	開講期	第 1 期	区分 ■必修 □選択 □必選 授業時数 18 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 情報化社会の進展により、暮らしの中に多くのデータが溢れている現代社会のキーワードとなるビッグデータやAI (Artificial Intelligence: 人工知能) は、データが主役であり、そのデータを正しく扱い、適切な分析スキルを身に付ける為の基礎知識を修得する。</p> <p>【当期授業の到達目標】 データの代表値の計算・説明ができる - 平均値、分散の計算・説明ができる 偏差値を説明ができる - 散布図のグラフ作成・説明ができる。</p>			
授業概要	データサイエンス領域に情報科学活用し、社会展開の実務経験の具体的な実例の紹介により、データサイエンス概要を把握してもらい、コンピュータを使用した、極力ビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式を主としたコースである。			
授業の 運営方法	対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。			
担当教員か らの メッセージ	各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書くことにウェイトを置く。ノート持参要。また、AI検定チャレンジを薦める。			
理解度テ スト、課題(レ ポート等)	毎回演習問題を行い、4週目に理解度確認小テスト・課題 実施予定。 また、Google Formsにて重要事項に関する確認問題の解答提出要(評価シート使用)			
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験にて行う。			
成績評価の 方法・基準	本校の成績評価基準及び評価シートにもとづき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・授業への取り組み(授業態度や演習への姿勢)10%・理解度テスト40% ・定期試験 50%			
オフィス アワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。			
教材	なし			
参考書	『身につく 入門統計学』著者: 向後千春、富永敦子、技術評論社			



科目名	データサイエンス基礎 a	担当教員	田中
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	データサイエンスとは？		
2週目	データ分析(有益なツール紹介)-1	反転授業	データサイエンス概要理解の為の統計学基礎知識を習得する。
3週目	データ分析(有益なツール紹介)-2	反転授業	
4週目	データの代表値(平均値、分散、標準偏差、偏差値)-1	事前学習型授業	
5週目	データの代表値(平均値、分散、標準偏差、偏差値)-2		
6週目	関係を見る(散布図を求める)		
7週目	平均を比較する(事前t分布の準備)	事前学習型授業	
8週目	復習 定期試験	アクティブラーニング	
9週目	テストを実施後、授業目標の達成状況を確認し、フォロー実施	プレゼンテーション	
アクティブラーニング(AL)の形態			
形態	説明		
事前学習型授業	教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もつづく演習を行わせる方法		
反転授業	動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもつづく演習を行わせる方法		
アクティブラーニング	自分自身にてICT活用し、学修し、他の学生との「考え・学び」のコミュニケーションを図る		

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

			たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験		
			田中 正彦		○		
たいしょうがつか 対象学科	□IG ■AI □GS □GB □IL						
かもくめい 科目名	データサイエンス基礎 b						
おんじ 年次	おん 1年	かいこうき 開講期	だい 第 2 期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 18 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】</p> ビックデータ・多種多様なデータ分析・活用の為に、統計学・多変量解析の基礎知識・スキルを収得する。 <p>【当期授業の到達目標】</p> ー条件付き確率の意味を理解できるー母集団平均と標本平均の違いを理解できる ー最小二乗法、回帰係数、標準誤差の理解ができるー変数減少法を理解できる ーt検定を理解できるーベイズの定理を理解できる						
じゅぎょうがいよう 授業概要	データサイエンス領域に情報科学活用し、社会展開の実務経験の具体的な実例の紹介により、データサイエンス概要を把握してもらい、コンピュータを使用した、極力ビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式を主としたコースである。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。						
たんとうきょういん 担当教員か らの メッセージ	各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書くことにウェイトを置く。ノート持参要。また、AI検定チャレンジを薦める。						
りかいど 理解度テスト、課題(レポート等)	毎回 演習問題を行い、4週目に理解度確認小テスト・課題 実施予定。 また、Google Formsにて重要事項に関する確認問題の解答提出要(評価シート使用)						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】理解度テスト・筆記試験にて行う。						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう 基準 方法・基準	本校の成績 評価 基準 及び 評価シートにもとづき、到達目標 達成度を次の方法で評価する。 ・授業への取組み(授業態度や演習への姿勢)10%・理解度テスト40% ・定期試験 50%						
オフィス アワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。						
きょう 教材	なし						
さんこうしょ 参考書	『BUSINESS TECHNIQUE EXCEL ビジネス統計分析 第3版』著者:末吉正成、末吉美喜 翔泳社						

科目名	データサイエンス基礎 b	担当教員	田中
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	授業の進め方と学習(予習・復習)		
2週目	確率・確率分布	反転授業	確率の重要知識習得
3週目	統計学的推定	反転授業	
4週目	多変量解析－単回帰分析	事前学習型授業	
5週目	多変量解析－重回帰分析		統計学的なデータ分析 スキル習得
6週目	t検定		
7週目	ベイズの定理	事前学習型授業	
8週目	復習 + ベイズの定理	事前学習型授業	今学期学んだことの確認
	定期試験		
9週目	テストを実施後、授業目標の達成状況を確認し、フォロー実施及び事前 AI 学習説明	プレゼンテーション	
アクティブラーニング(AL)の形態			
形態	説明		
事前学習型授業	教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もとづく演習を行わせる方法		
反転授業	動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法		
プレゼンテーション	学生が資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行う方法		

れいわ ねんど  
令和5年度シラバス

				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				田中 正彦		○	
たいしやうがつか 対象学科	□IG ■AI □GS □GB □IL						
かもくめい 科目名	データサイエンス基礎 c						
ねんじ 年次	ねん 1年	かいこうき 開講期	だい 第3期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 18時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひやう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】                  たいぷらーにんぐ きほん にゆーらるねつとわーく しゅく りかい AIがいよう ちやうかん                  ディープラーニングの基本となるニューラルネットワークの仕組みを理解し、AI概要を鳥瞰                  する基本知識を修得する</p> <p>【当期授業の到達目標】                  このコース終了後に、特に、以下の項目を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各層のニューロンの役割を理解できる</li> <li>入力の線形和を理解できる</li> <li>シグモイド関数の理解ができる</li> <li>正解と出力の誤差の式を理解できる</li> <li>AI概要が理解出来、ニューラルネットワークを実装できる</li> </ul>						
じゅぎょうがいよう 授業概要	<p>たいぷらーにんぐ ささ たたこ にゆーらるねつとわーく じんこうにゆーろん                  ディープラーニングを支える「畳み込みニューラルネットワーク」は人工ニューロンから                  構成されています。面白いことに、その一つひとつがExcelの一つひとつのセルに相当するの                  です。すなわち、畳み込みニューラルネットワークの構造を容易に理解・把握できます。                  Excelは、AI学習に最適です。</p>						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	<p>たいめんじゅぎょう とてい ばあい たいめん おんらいん へいよう                  対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用)</p> <p>かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう ぼいんと しょうてん あ えんしゅうちゅうしん じゅぎょうけい                  各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。</p>						
たんとうきょういん 担当教員か らの メッセージ	<p>かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう ぼいんと ばんしよ ため のーと かならず ばんしよじこう かく                  各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書く                  ことにウエイトを置く。ノート持参要。また、AI検定チャレンジを薦める。</p>						
りかいど 理解度テスト、課題(レポート等)	<p>まいかい えんしゅうもんだい おこない 4しゅうめ りかいどかくにんしやうですと かだい じっしやてい                  毎回 演習問題を行い、4週目に理解度確認小テスト・課題 実施予定。</p> <p>また、Google Formsにて重要事項に関する確認問題の解答提出要(評価シート使用)</p>						
ていきしけん 定期試験	<p>(じゅけんしかく) しゅつせきりつ70% いじよう がくせい                  【受験資格】出席率70%以上の学生</p> <p>(しけんほうほう) りかいど ひつきしけん おこなう                  【試験方法】理解度テスト・筆記試験にて行う。</p>						
せいせきひやうか 成績評価の方法・基準	<p>ほんこう せいせき ひやうか きじゆん およ びやうかしーと とうたつもくひやう たつせいど つぎ ほうほう ひやうか                  本校の成績 評価 基準 及び 評価シートにもとづき到達目標 達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業への取組み(授業態度や演習への姿勢)10%</li> <li>理解度テスト40%</li> <li>定期試験 50%</li> </ul>						
オフィス アワー	ほうかご たいおうかのう 放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。						
きやう ざい 教材	なし						
さんこうしよ 参考書	『Excelでわかるデータサイエンス超入門』著者: 涌井良幸、涌井貞美 技術評論社						

科目名	データサイエンス基礎 c	担当教員	田中
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	授業の進め方と学習(予習・復習)		
2週目	AIとディープラーニング	反転授業	確率の重要知識習得
3週目	ディープラーニングに使うExcel関数	反転授業	
4週目	回帰分析と最適化問題	事前学習型授業	
5週目	ニューロンモデル		AIがいよいよかいちしきしゅうとく AI概要理解知識修得
6週目	ニューラルネットワークの仕組み(1)		
7週目	ニューラルネットワークの仕組み(2)	事前学習型授業	
8週目	ニューラルネットワークの仕組み(3) + Review	事前学習型授業	今学期学んだことの確認
	定期試験		
9週目	ニューラルネットワークの仕組み(4)	プレゼンテーション	AI学習に繋がる動画参照

アクティブラーニング(AL)の形態

形態	説明
事前学習型授業	教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もつづく演習を行わせる方法
反転授業	動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもつづく演習を行わせる方法
プレゼンテーション	学生が資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行う方法

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				田中 正彦		○	
たいしょうがつか 対象学科	□IG ■AI □GS □GB □IL						
かもくめい 科目名	データサイエンス基礎 d						
おんじ 年次	1 年	かいこうき 開講期	だい 4 期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	18 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 AI基礎aにおいてディープラーニングの基本となるニューラルネットワークの仕組みを理解し 上で、畳み込みニューラルネットワークの知識・構築を行う</p> <p>【当期授業の到達目標】 このコース終了後に、特に、以下の項目を到達目標とする。 －フィルターの役割を理解できる      ー畳み込みの意味を理解できる －プーリン層の理解ができる      ー畳み込みニューラルネットワークを実装する</p>						
じゅぎょうがいよう 授業概要	ディープラーニングを支える「畳み込みニューラルネットワーク」は人工ニューロンから 構成されています。面白いことに、その一つひとつがExcelの一つひとつのセルに相当するの です。すなわち、畳み込みニューラルネットワークの構造を容易に理解・把握できます。 Excelは、AI学習に最適です。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	たいめんじゅぎょう よてい ばあい たいめん おんらいん へいよう 対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう ぼいんと しょうてん あ えんしゅうちゅうしん じゅぎょうけい 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。						
たんとうきょういん 担当教員か らの メッセージ	かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう ぼいんと ばんしよ ため の ーと かならず ばんしよじこう かく 各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書く ことウエイトを置く。 ノート持参要。 また、AI検定チャレンジを薦める。						
りかいど 理解度 テス ト、課題 (レ ポート等)	まいかい えんしゅうもんだい おこなひ 4しゅうめ りかいどかくにんしやうてすと かだい じつしよてい 毎回 演習問題を行い、4週目に理解度確認小テスト・課題 実施予定。 また、Google Formsにて重要事項に関する確認問題の解答提出要(評価シート使用)						
ていきしけん 定期試験	(じゅけんしかく) しゅつせきりつ70 いじょう がくせい 【受験資格】 出席率70%以上の学生 (しけんほうほう) りかいど ひつきしけん おこなう 【試験方法】 理解度テスト・筆記試験にて行う。						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゆん 方法・基準	ほんこう せいせき ひょうか きじゆん およ びょうか しーと とうたつもくひょう たっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績 評価 基準 及び 評価シートにもとづき到達目標 達成度を次の方法で評価する。 ・ 授業への取組み(授業態度や演習への姿勢)10%・理解度テスト40% ・ 定期試験 50%						
オフィス アワー	ほうかご たいおうかのう じげん よやく しょういん うえ 放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書	『Excelでわかるディープラーニング超入門』 著者: 涌井良幸、涌井貞美 技術評論社						

科目名	データサイエンス基礎 d	担当教員	田中
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	授業の進め方と学習(予習・復習)		
2週目	ニューラルネットワークから畳み込みニューラルネットワーク	反転授業	ニューラルネットワークのポイント復習
3週目	画像確認：手書き数字「1」と「2」を取得	反転授業	
4週目	入力層のニューロンを表現、正解の表現	事前学習型授業	
5週目	畳み込み層の出力値を計算		パラメータを少なくするために、フィルターを利用した畳み込み層作成を理解する
6週目	プーリング層を計算		
7週目	出力層の出力値を計算	事前学習型授業	
8週目	畳み込みニューラルネットワークの最適化	事前学習型授業	今学期学んだことの確認
	定期試験		
9週目	テストを実施後、学業目標の達成状況を確認し、フォロー実施	プレゼンテーション 自己事後学修	AI学習に繋がる動画参照

アクティブラーニング(AL)の形態

形態	説明
事前学習型授業	教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もつづく演習を行わせる方法
反転授業	動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもつづく演習を行わせる方法
プレゼンテーション	学生が資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行う方法
自己事後学修	コースとおとして、『データサイエンス G 検定』著者：浅川伸一他 翔泳社を読み、AI検定の知識を学生自らが習得することを強く薦める。

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				森久保 光一		○	
				山本 幸生		○	
対象学科 たいしやうがつか	■IG ■AI ■GS □GB □IL			田中 正彦		○	
科目名 かもくめい	Pythonプログラミング a						
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 1 期 だい 1 き	区分 くぶん	■必修□選択□必選 ひつしやうせんたくひつせん	授業時数 じゆぎやうじすう	72 時間 72 じかん
授業 じゆぎやう 到達目標 とうたつもくひやう	<p>【最終期授業の到達目標】 Python言語を使用して、自分が解決したいと考える課題を解決することができる。</p> <p>【当期授業の到達目標】 プログラムの仕組みを理解できる。数値計算をプログラムで記述することができる。 外部ライブラリを利用することができる。</p>						
授業概要 じゆぎやうがいやう	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける。						
授業の うんえいほうほう 運営方法	Pythonのチュートリアル項目を中心に授業を進め、必要なプログラムを提示する。 プログラムの説明をしたのち、学生はプログラムを参照しながら入力する。						
担当教員 からの メッセージ	キーボード配置を覚えて、可能な限りブラインドタッチができるようになってほしい。 授業中のサンプルを打ち込むだけでなく、さまざまな問題にチャレンジしてほしい。						
理解度 テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル Pythonドキュメントサイト ( <a href="https://docs.python.org/ja/3/index.html">https://docs.python.org/ja/3/index.html</a> ) 内のチュートリアル						
参考書	Pythonに関する書籍(現在多数出版されています。本屋で立ち読みをして自分にあっているなと感じる本を購入して手元に置いておくと安心です。)						



科目名	Pythonプログラミング a	担当教員	森久保・山本・田中
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	作業環境の構築・言語の種類 Pythonを使ってみる(チュートリアル第3章)	事前学習型	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける。
2週目	データ構造1 (リスト型・集合型・辞書型) (チュートリアル第5章) データ構造2 (スタック・キュー)		
3週目	制御文1 (if 文・for 文など) (チュートリアル第4章) 制御文2 (アルゴリズムと流れ図)		
4週目	関数 (標準モジュール) (チュートリアル第4章6章)		
5週目	モジュールの取り込み		
6週目	関数 (パッケージ) (チュートリアル第6章) 関数の作り方を学修する 関数の使い方を学修する		
7週目	総復習 (試験対策)		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
<p>アクティブラーニングの類型</p> <p>事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん
				森久保 光一		○
				山本 幸生		○
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI ■GS □GB □IL			田中 正彦		○
科目名 かもくめい	Pythonプログラミング b					
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 2 期 だい 2 き	区分 くぶん	■必修□選択□必選 ひつしゅうせんたくひつせん	授業時数 じゅぎょうじすう
						72 時間 72 じかん
授業 授業 じゅぎょう	【最終期授業の到達目標】 Python言語を使用して、自分が解決したいと考える課題を解決することができる。 【当期授業の到達目標】 Pythonの基本を活用し、エラーや例外を理解できる。 Pythonのライブラリについて理解できる。仮想環境を作成することができる。					
到達目標 とうたつもくひょう						
授業概要 じゅぎょうがいよう	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける。					
授業の 運営方法 じゅぎょう うんえいほうほう	Pythonのチュートリアル項目を中心に授業を進め、必要なプログラムを提示する。 プログラムの説明をしたのち、学生はプログラムを参照しながら入力する。					
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん からの メッセージ	キーボード配置を覚えて、可能な限りブラインドタッチができるようになってほしい。 授業中のサンプルを打ち込むだけでなく、さまざまな問題にチャレンジしてほしい。					
理解度 テスト、課題 りかいど テスト、かだい	毎回Formsによる確認テストを実施する。					
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」					
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうかの ほうほうきじゆん	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%					
オフィス アワー おふいす アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。					
教材 きょうざい	クラスルームに配布するプログラムファイル Pythonドキュメントサイト (https://docs.python.org/ja/3/index.html) 内のチュートリアル					
参考書 さんこうしょ	Pythonに関する書籍(現在多数出版されています。本屋で立ち読みをして自分にあっているなと感じる本を購入して手元に置いておくと安心です。)					

科目名	Pythonプログラミング b	担当教員	森久保・山本・田中
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	クラスとオブジェクト指向1 (チュートリアル第9章) オブジェクト指向について知る	事前学習型	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける。
2週目	クラスとオブジェクト指向2 (チュートリアル第9章) クラスの作り方を学修する		
3週目	クラス1 (継承) (チュートリアル第9章) クラス継承の作り方を学修する		
4週目	クラス2 (継承) (チュートリアル第9章) クラス継承の使い方を学修する		
5週目	エラーと例外 (チュートリアル第8章) エラーと例外を学修する エラーと例外の対応を学修する		
6週目	標準ライブラリ1 (チュートリアル第10章) 標準ライブラリについて知る 標準ライブラリの使い方を学修する		
7週目	総復習 (試験対策)		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
<p>アクティブラーニングの類型</p> <p>事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				森久保 光一	○
				山本 幸生	○
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL			田中 正彦	○
科目名	Pythonプログラミング c				
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 必選
授業	<b>【最終期授業の到達目標】</b> Python言語を使用して、自分が解決したいと考える課題を解決することができる。 <b>【当期授業の到達目標】</b> PythonのGUI環境を利用した、2Dゲームのコーディングを学ぶ				
授業概要	IT系の実務経験者が、ゲームサンプルのプログラム作成を教授する。学生は、PythonによるGUI環境を構築し、これを用いて、2Dゲームのサンプルを作成する。この授業を通して、図形の描画、図形の移動、描画の切り替え等の基本動作を習得する。				
授業の運営方法	Python言語のプログラミング習熟と並行して、ゲーム題材とした課題プログラミングを作成してゆきます。作成を通してプログラミング技術を習得するとともに、GUIライブラリの活用を学び、GUIによる画面描画、プログラム操作ができるように学んでゆきます。				
担当教員からのメッセージ	GUIを使うプログラミングを使えるようになると、作成できるプログラムの幅が大きく広がります。簡単なゲームを作っただけですが、その中に、応用ができる多くのアイデアが含まれているので、後に、自分のアイデアでゲームや応用アプリを実現するときに使えるベース技術が身につきます。				
理解度テスト、課題	まいかいFormsによる確認テストを実施する。				
定期試験	<b>【受験資格】</b> 出席率70%以上の学生 <b>【試験方法】</b> 「筆記試験」または「フォームによる試験」				
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%				
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル Pythonドキュメントサイト ( <a href="https://docs.python.org/ja/3/index.html">https://docs.python.org/ja/3/index.html</a> ) 内のチュートリアル				
参考書	Pythonに関する書籍(現在多数出版されています。本屋で立ち読みをして自分にあっているなと感じる本を購入して手元に置いておくと安心です。)				

科目名	Pythonプログラミング c	担当教員	森久保・山本・田中
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	標準ライブラリ3 (チュートリアル第11章)) 標準ライブラリの使い方を学修する	事前学習型	サンプルプログラムの作成を通じて、ゲーム動作とプログラム手法を学びます。
2週目	仮想環境とパッケージ1 (チュートリアル第12章) 仮想環境の作り方を学修する パッケージの使い方を学修する		
3週目	Python3エンジニア認定基礎試験について (試験概要、内容、合格基準、申し込み方法など)		
4週目	プライムストラテジの第1回Python3基礎模擬試験に取り組む		
5週目	プライムストラテジの第2回Python3基礎模擬試験に取り組む		
6週目	プライムストラテジの第3回Python3基礎模擬試験に取り組む		
7週目	総復習 (試験対策)		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
<p>アクティブラーニングの類型</p> <p>事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

担当教員	実務経験
森久保 光一	○
田中 正彦	○

対象学科	■IG □AI ■GS □GB □IL						
科目名	Python実習(ゲームプログラミング)						
年次	1年	開講期	第4期	区分	■必修 □選択 □必選	授業時数	72時間
授業到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 ゲームプログラミングabcを通じ、オリジナルゲームを制作できるようになる。</p> <p>【当期授業の到達目標】 企画から開発までの手順と技術を理解するとともに、作ってみたいゲーム企画を具体化し実際に作成する簡易なゲームのポイントを説明できるようになる。</p>						
授業概要	IT系の実務経験者が、ゲーム制作の流れを実例を含めて教授する。学生は、ゲームの企画から開発を行うまでの基本的な手順と技術を学び、ゲーム開発の企画を立案、プレゼンを行う。並行して、ビジュアル言語で簡易なゲームを作成し、理論と実際を結び付けて理解する。						
授業の運営方法	ゲームのアイデア、デザイン、ルールを実際のゲームと対比しつつ学習し、ゲーム企画に必要な内容、ポイントを理解するとともに良く知っているゲームを分析してみる。これを基に、自分で作ってみたいゲームの企画書の作成を実習する。一方で、プログラムとゲームポイントの関連をビジュアル言語で簡易なゲームを作成しながら学習してゆく。						
担当教員からのメッセージ	面白い、楽しいというゲームを作るためには、アイデアだけでなく、様々な観点でレベルを高くしてゆく必要がある。この講座では、ゲームの構成を分析し、どのようにユーザ満足度を上げてゆくかを学びながら、自分が作ってみたいゲームのアイデア、企画を具体化してゆきます。合わせて、簡易なゲームを作り改善点等を検討してみます。						
理解度テスト、課題	作成した簡易ゲームの提出、企画書の作成提出を行います。毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	<p>【受験資格】 出席率70%以上の学生</p> <p>【試験方法】 課題（企画書の提出）および、簡易ゲームの提出</p>						
成績評価の方法・基準	<p>本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 50%</li> <li>平常点（授業態度や演習への取り組み）10%</li> <li>理解度テスト 40%</li> </ul>						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	なし						
参考書							

科目名	Python実習(ゲームプログラミング)	担当教員	森久保・田中
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス Pygame/Tkinterインストール カレンダープログラム CUIとGUI すぐろくゲームをつくる	調査学習	ゲームのアイデア、デザイン、ルールを <b>実際</b> のゲームと対比しつつ学習し、ゲーム企画に必要な内容、ポイントを理解するとともによく知っているゲームを分析してみる。これを基に、自分で作ってみたいゲームの企画書の作成を <b>実習</b> する。一方で、プログラムとゲームポイントの <b>関連</b> をビジュアル言語で簡易なゲームを作成しながら学習してゆく。
2週目	GUIの基礎 キャンバス、ラベル、ボタン おみくじゲームをつくる		
3週目	GUIの発展 テキスト入力、メッセージボックス、RGB、キー入力、マウス入力 診断ゲームをつくる		
4週目	迷路ゲームをつくる		
5週目	落ちものパズルを作成する		
6週目	ダンジョンゲームを作成する (画面、移動)		
7週目	総復習 (試験対策)		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
<p>アクティブラーニングの類型</p> <p>事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん
山本 幸生	○

対象学科 たいしょうがつか	□IG ■AI □GS □GB □IL						
科目名 かもくめい	Python実習(AIプログラミング)						
年次 ねんじ	1年 ねん	開講期 かいこうき	第4期 だいしき	区分 くぶん	■必修□選択□必選 ひつしゅうせんたくひつせん	授業時数 じゅぎょうじすう	72時間 じかん
授業 とうたつもくひょう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 Python言語でAIライブラリを利用したプログラミングができるようになる。</p> <p>【当期授業の到達目標】 Pythonプログラミングabcの知識を活用し、AIの基本的な手法をプログラミングできるようになる。</p>						
授業概要 じゅぎょうがいよう	AIでよく利用されるライブラリを使用しながら、データ処理や機械学習についてサンプル問題を通じて体験する。						
授業の 運営方法 うんえいほうほう	サンプルプログラムを書写や、必要となるライブラリの使用法を調査し、機械学習プログラムを完成できるようにする。						
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん	プログラムをストレスなく打ち込めるようにブラインドタッチの練習をしておきましょう。プログラムも練習した分だけ身に付きます。講義時間以外も積極的に取り組みましょう。						
理解度 テスト、課題 りかいど	作成したプログラムの提出 単元ごとのFormsによる確認テストを実施						
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】課題の提出						
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー おふいす	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材 きょうざい	なし						
参考書 さんこうしょ							



科目名	Python実習 (AIプログラミング)	担当教員	山本
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス 機械学習の流れと性能評価について ・処理全体の流れ ・性能評価の種類について		AIでよく利用されるライブラリを使用しながら、データ処理や機械学習についてサンプル問題を通じて体験する。
2週目	基本ライブラリ (Numpy・Pandas) の基礎 ・Numpy 1次元配列と2次元配列 ・Pandas SeriesとDataFrame	事前学習型	
3週目	グラフィブラリ (Matplotlib) の基礎 ・グラフの種類 ・データのグラフ化	事前学習型	
4週目	教師あり学習 (分類) の基礎 ・分類の手法について	事前学習型	
5週目	画像ライブラリ (OpenCV) と前処理 ・画像データについて ・データの扱いについて ・画像の加工方法について	事前学習型	
6週目	深層学習 (分類) の実践 ・手書き文字の分類	事前学習型	
7週目	深層学習 (分類) のチューニング ・ハイパーパラメータについて	事前学習型	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型			
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				富永 英世		○	
				瀬戸 幸司		○	
				佐竹 真彰		○	
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI ■GS □GB □IL						
科目名 かものくめい	Webシステム開発基礎 a かいぱつ き そ						
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 1 期 だい 1 き	区分 くぶん	必修選択必修 ひつしゅう せんたく ひつせん	授業時数 じゅぎょうじすう	54 時間 54 じかん
授業 授業 とうたつもくひょう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 Web開発に必要なHTML/CSS/JavaScript及びフレームワークを利用した開発スキルを身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 Webクリエイター能力認定試験スタンダード受験可能レベル。 HTML/CSSを使ったWebページを作れるようになる。</p>						
授業概要 じゅぎょうがいよう	HTMLとCSSを使って静的なWebページを作成するための環境構築から始め、実際のWebページ作成の実習を行う。						
授業の 運営方法 うんえいほうほう	HTMLとCSSについて解説を加えながらWebページ作成の例題に取り組む。 HTMLのタグの機能やCSSによるページデザインの変化について、実習を通じて確認しながら進める。						
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん	昨今は、Webシステムが我々の身近なものとなっている。Webシステムでは、HTML/CSS/JavaScriptなどのクライアントサイドの技術が必須である。ここでは、その基礎となるHTMLとCSSを取り上げ、静的なWebページを作成できる技術を身につけてほしい。						
理解度 テスト、課題 (レポート等) りかいど	毎週理解度テストを実施する。 定期試験は課題制作とする。 必要に応じて授業で取り組んだ例題の提出を求める。						
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】仕様を提示しそれに基づいた課題を制作する						
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オフィス アワー げつよう	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。						
教材 きょうざい	クラスルームに配布するプログラムファイル						
参考書 さんこうしょ	Webクリエイター能力認定試験 HTML5対応 スタンダード 公式テキスト						

科目名	Webシステム開発基礎 a	担当教員	富永・瀬戸・佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	Webサイト制作の基礎知識 Webページ表示の仕組み、サイト制作環境構築	じぜんがくしゅうがた 事前学習型	HTML/CSSによる静的なWeb ページ制作の基礎を身に 着ける。
2週目	HTMLの基礎 HTML5の記述法、トップページの作成		
3週目	CSSの基礎 CSSの記述法、セレクタの種類、トップページのCSS作成		
4週目	各ページの作成 トップページをベースに各サブページを作成		
5週目	テーブルとそのスタイル テーブルの作成とCSSによるデザイン		
6週目	フォーム フォームの作成とCSSによるデザイン		
7週目	サイト公開前のチェック 1学期の総まとめ		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
<p>事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん
				富永 英世	○
				瀬戸 幸司	○
				佐竹 真彰	○
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI ■GS □GB □IL				
科目名 かものめい	Webシステム開発基礎 b かいぱつ きそ				
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 2 期 だい 2 き	区分 くぶん	■必修□選択□必選 じゅうぎょう せんたく びせん
					授業時数 じゅうぎょう じすう
					54 時間 54 じかん
授業 とうたつともくひょう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 Web開発に必要なHTML/CSS/JavaScript及びフレームワークを利用した開発スキルを身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 Webクリエイター能力認定試験スタンダード受験可能レベル。 HTML/CSSを使ったWebページを作れるようになる。</p>				
授業概要 じゅうぎょうがいよう	1学期に学んだ知識をもとに、検定試験の模擬問題を解くことで知識の定着を図る。また、検定試験出題パターンの理解を深め、合格を目指す。				
授業の うんえいほうほう 運営方法	受験者用リファレンスを参照しながら模擬問題を解く。また、正解を示しながら各問の解説を行う。間違いやすいポイントを補足する。				
担当教員 からの メッセージ	昨今は、Webシステムが我々の身近なものとなっている。Webシステムでは、HTML/CSS/JavaScriptなどのクライアントサイドの技術が必須である。ここでは、その基礎となるHTMLとCSSを取り上げ、静的なWebページを作成できる技術を身につけてほしい。				
理解度 テスト、課題 (レポート等)	毎週理解度テストを実施する。 定期試験は課題制作とする。 必要に応じて授業で取り組んだ例題の提出を求める。				
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】仕様を提示しそれに基づいた課題を制作する				
成績評価の ほうほう 方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。				
オフィス アワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。				
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル				
参考書	Webクリエイター能力認定試験 HTML5対応 スタンダード 公式テキスト				

科目名	Webシステム開発基礎 b	担当教員	富永・瀬戸・佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	検定試験について 試験の概要、受験者用リファレンスについて		
2週目	模擬問題① 模擬試験		
3週目	模擬問題① 解説		
4週目	模擬問題② 模擬試験	じぜんがくしゅうがた 事前学習型	
5週目	模擬問題② 解説		HTML/CSSによる静的なWeb ページ制作の基礎を身に 着ける。
6週目	模擬問題③ 模擬試験		
7週目	模擬問題③ 解説		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
<p>じぜんがくしゅうがたじゅぎょう きょうかしょ さんこうしょ等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前 学習にもとづく演習をおこなわせる方法</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん
				富永 英世		○
				瀬戸 幸司		○
				佐竹 真彰		○
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI ■GS □GB □IL					
科目名 かものくめい	Webシステム開発基礎 c かいぱつ きそ					
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 3 期 だい 3 き	区分 くぶん	必修選択必修 ひつしゅう せんたく ひつせん	授業時数 じゅぎょうじすう
						54 時間 54 じかん
授業 授業 とうたつもくひょう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 Web開発に必要なHTML/CSS/JavaScript及びフレームワークを利用した開発スキルを身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 JavaScriptの基本を理解し、動的なWebページを作成することができる。</p>					
授業概要 じゅぎょうがいよう	JavaScriptを基本構文から学び、イベント処理やアニメーションなど、動的なWebページの作成方法について理解する					
授業の 運営方法 うんえいほうほう	JavaScriptについて解説を加えながら、Webページ作成の例題に取り組む。 JavaScriptによる動的なWebページの作成方法について、実習を通じて確認しながら進める。					
担当教員 からの メッセージ	昨今は、Webシステムが我々の身近なものとなっている。Webシステムでは、HTML/CSS/JavaScriptなどのクライアントサイドの技術が必須である。ここでは、クライアントサイド言語としてJavaScriptを取り上げ、動的なWebページを作成できる技術を身につけてほしい。					
理解度 テスト、課題 (レポート等)	毎週理解度テストを実施する。 定期試験は課題制作とする。 必要に応じて授業で取り組んだ例題の提出を求める。					
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】仕様を提示しそれに基づいた課題を制作する					
成績評価の 方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。					
オフィス アワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。					
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル					
参考書	1冊ですべて身につくJavaScript入門講座					

科目名	Webシステム開発基礎 c	担当教員	富永・瀬戸・佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	JavaScriptとは	事前学習型	JavaScriptによる動的なWebページ制作の基礎を身につける。
2週目	JavaScriptの基本機能		
3週目	イベント操作① 標準インターフェースの利用		
4週目	イベント操作② 条件分岐		
5週目	データと配列		
6週目	アニメーション		
7週目	Webサイトへの応用		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
<p>事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん
				富永 英世		○
				瀬戸 幸司		○
				佐竹 真彰		○
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI ■GS □GB □IL					
科目名 かものめい	Webシステム開発基礎 d webしすてむ かいはつ き そ					
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこう き	第 4 期 だい き	区分 くぶん	必修選択必選 ひつしゅう せんたく ひつせん	授業時数 じゅぎょう じすう
						54 時間 54 じかん
授業 とうたつものびょう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 Web開発に必要なHTML/CSS/JavaScript及びフレームワークを利用した開発スキルを身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 PHPの基本を理解し、データベースの参照・編集・削除ができるようになる。 PHPフレームワークを用いたWebシステムが作れるようになる。</p>					
授業概要 じゅぎょうがいよう	<p>前半は、PHPの構文とSQLについて学び、データベース処理の基本を修得する。 後半は、フレームワークの使い方を学び、効率の良い開発方法を修得する。</p>					
授業の うんえいほうほう 運営方法	<p>PHPとSQLについて解説を加えながらWebページ作成の例題に取り組む。 データベース処理の基本について仕組みを理解したうえで、フレームワークを使用した実践的な開発をする。</p>					
担当教員 からの メッセージ	<p>昨今は、Webシステムが我々の身近なものとなっている。Webシステムでは、PHPなどのサーバーサイドの技術によりデータベースを扱うことが必須である。ここでは、PHPとSQLを取り上げ、データベースを扱うWebページを作成できる技術を身につけてほしい。</p>					
理解度 テスト、課題 (レポート等)	<p>毎週理解度テストを実施する。 定期試験は課題制作とする。 必要に応じて授業で取り組んだ例題の提出を求める。</p>					
定期試験	<p>【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 仕様を提示しそれに基づいた課題を制作する</p>					
成績評価の 方法・基準	<p>平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。</p>					
オフィス アワー	<p>月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。</p>					
教材	<p>クラスルームに配布するプログラムファイル</p>					
参考書	<p>よくわかるPHPの教科書 PHP7対応版 プロフェッショナルWebプログラミング Laravel</p>					



科目名	Webシステム開発基礎 d	担当教員	富永・瀬戸・佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	データベースを使用したWebシステムについて PHPの基本的な構文	事前学習型	PHPによる動的なWebページ制作の基礎を身に着ける。 PHPフレームワークLarabelの導入と基本的な使用方法を身に着ける。
2週目	変数と計算		
3週目	ループと条件分岐		
4週目	データベースとSQL		
5週目	フレームワークの導入		
6週目	アプリケーションの基本構造の作成 データベースへの投稿・編集・削除		
7週目	アプリケーションを完成させる ログイン機能の追加		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
<p>事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

担当教員	実務経験
佐竹 真彰	○

対象学科	■IG ■AI □GS □GB □IL						
科目名	ロジカルシンキング a						
年次	1 年	開講期	第 1 期	区分	■必修 □選択 □必選	授業時数	18 時間
授業到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】</p> <p>ロジカルシンキングを活用した問題解決方法を理解する</p> <p>【当期授業の到達目標】</p> <p>ロジカルシンキングを活用した問題解決方法（MECE、PDCA等）を理解する</p>						
授業概要	<p>物事を考えるとき、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方を理解し、活用するスキルを身につける。</p>						
授業の運営方法	<p>ロジカルシンキングを具体的に段階的に解説していく。</p> <p>物事を「モレなく、ダブリなく」考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。</p>						
担当教員からのメッセージ	<p>システム開発やビジネスシーンにおいて、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方は重要です。</p> <p>ロジカルシンキングを活用した問題解決方法を理解して、活用できるようになりましょう。</p>						
理解度テスト、課題	<p>まいかい Forms 毎回Formsによる確認テストを実施する。</p>						
定期試験	<p>【受験資格】出席率70%以上の学生</p> <p>【試験方法】フォームによる試験</p>						
成績評価の方法・基準	<p>本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 50%</li> <li>平常点（授業態度や演習への取り組み）10%</li> <li>理解度テスト 40%</li> </ul>						
オフィスアワー	<p>放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。</p>						
教材	<p>クラスルームに配布する電子テキスト</p>						
参考書							

科目名	ロジカルシンキング a	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ロジカルシンキングとは MECE（ミーシー）とは PDCAサイクルを使った例題	調査学習	ロジカルシンキングを 具体的に段階的に解説し ていく。 物事を「モレなく、ダブ リなく」考えるための 手段を例題と問題で考え ながら進めていく。
2週目	ECRSとは ECRSを使った例題	調査学習	
3週目	KPTとは KPTを使った例題	調査学習	
4週目	マンダラートとは マトリクス図・表を使った例題	調査学習	
5週目	ベン図とは ベン図を使った例題	調査学習	
6週目	ロジックツリーとは ロジックツリーを使った例題	調査学習	
7週目	総復習(定期試験対策)	調査学習	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
<p>アクティブラーニングの類型</p> <p>・調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

担当教員	実務経験
佐竹 真彰	○

対象学科	■IG ■AI □GS □GB □IL						
科目名	ロジカルシンキング b						
年次	1 年	開講期	第 2 期	区分	■必修 □選択 □必選	授業時数	18 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】</p> <p>ロジカルシンキングを活用した問題解決方法を理解する</p> <p>【当期授業の到達目標】</p> <p>問題解決法を活用できるようにする</p>						
授業概要	<p>物事を考えるとき、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方を理解し、活用するスキルを身につける。</p>						
授業の 運営方法	<p>ロジカルシンキングを具体的に段階的に解説していく。</p> <p>物事を「モレなく、ダブリなく」考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。</p>						
担当教員 からの メッセージ	<p>システム開発やビジネスシーンにおいて、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方は重要です。</p> <p>ロジカルシンキングを活用した問題解決方法を理解して、活用できるようになりましょう。</p>						
理解度 テスト、課題	<p>毎回Formsによる確認テストを実施する。</p>						
定期試験	<p>【受験資格】出席率70%以上の学生</p> <p>【試験方法】フォームによる試験</p>						
成績評価の 方法・基準	<p>本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 50%</li> <li>平常点（授業態度や演習への取り組み）10%</li> <li>理解度テスト 40%</li> </ul>						
オフィス アワー	<p>放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。</p>						
教材	<p>クラスルームに配布する電子テキスト</p>						
参考書							

科目名	ロジカルシンキング b	担当教員	佐竹
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	3C分析とは 3C分析を使った例題	調査学習	ロジカルシンキングを具体的に段階的に解説していく。 物事を「モレなく、ダブリなく」考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。
2週目	4P分析とは ECRSを使った例題	調査学習	
3週目	SWOT分析とは SWOT分析を使った例題	調査学習	
4週目	ロジカル面接術① オンライン面接・コミュニケーション力	調査学習	
5週目	ロジカル面接術② 自己PR作成	調査学習	
6週目	ロジカル面接術③ 志望動機	調査学習	
7週目	総復習(定期試験対策)	調査学習	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
<p>アクティブラーニングの類型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。</li> <li>プレゼンテーション…学生がスライド等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</li> </ul>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

担当教員	実務経験
佐竹 真彰	○

対象学科	■IG ■AI □GS □GB □IL						
科目名	コミュニケーション技法 a						
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	必修 選択 必選	授業時数	18 時間
授業到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 社会で必要となるコミュニケーションスキルを身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 コミュニケーションとは何かを知り、その大切さを実感したうえで、コミュニケーションスキルを身につける。</p>						
授業概要	IT系実務経験者により、コミュニケーションについての必要性/重要性を伝える。クラスをいくつかのグループに分け、ワークショップ形式の実習を通して、「傾聴力」「説明力」「質問力」「協調性」等を伸ばしていく。特にaでは人との会話（面接なども含め）について集中的に実施する。						
授業の運営方法	毎授業、テーマを決めてそのテーマについて学習を行う。学習は、グループに分かれて、グループごとにディスカッションなどを行っていく。						
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・批判はせず、まず受け入れる事。</li> <li>・積極的に発言をすること。</li> </ul> <p>まだ話したことがないクラスメイトなどとも積極的に話をして、コミュニケーション力を身につけていきましょう。</p>						
理解度テスト、課題	授業毎に、理解度テストを実施。						
定期試験	<p>【受験資格】出席率70%以上の学生</p> <p>【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」</p>						
成績評価の方法・基準	<p>本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験 50%</li> <li>・平常点（授業態度や演習への取り組み）10%</li> <li>・理解度テスト 40%</li> </ul>						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書							

科目名	コミュニケーション技法 a	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス コミュニケーションとは	事前学習型	グループワークを通して コミュニケーション力を 身につける
2週目	コミュニケーションスキル 前段階 自分を知ろう (ジョハリの窓)	グループ ワーク	
3週目	コミュニケーションスキル 前段階 自分を知ろう (性格/交流分析)	グループ ワーク	
4週目	コミュニケーションスキル 前段階 自分を知ろう (こころについて)	グループ ワーク	
5週目	コミュニケーションの基本① 「伝える」 人とつながろう	グループ ワーク	
6週目	コミュニケーションの基本① 「伝える」 対人関係の基本	グループ ワーク	
7週目	コミュニケーションの基本① 「伝える」 言いたいことをうまく伝える技術	グループ ワーク	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
AL形態の内容 グループワーク：学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法。 2人組によるペアワークも含む。			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

担当教員	実務経験
佐竹 真彰	○

対象学科	■IG ■AI □GS □GB □IL						
科目名	コミュニケーション技法 b						
年次	1 年	開講期	第 4 期	区分	必修 選択 必選	授業時数	18 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 社会で必要となるコミュニケーションスキルを身につける。</p> <p>【当期授業の到達目標】 コミュニケーションとは何かを知り、その大切さを実感したうえで、コミュニケーションスキルを身につける。</p>						
授業概要	IT系実務経験者により、コミュニケーションについての必要性/重要性を伝える。クラスをいくつかのグループに分け、ワークショップ形式の実習を通して、「傾聴力」「説明力」「質問力」「協調性」等を伸ばしていく。特にaでは人との会話（面接なども含め）について集中的に実施する。						
授業の 運営方法	毎授業、テーマを決めてそのテーマについて学習を行う。学習は、グループに分かれて、グループごとにディスカッションなどを行っていく。						
担当教員 からの メッセージ	<p>・批判はせず、まず受け入れる事。</p> <p>・積極的に発言をすること。</p> <p>まだ話したことがないクラスメイトなどとも積極的に話をして、コミュニケーション力を身につけていきましょう。</p>						
理解度 テスト、課題	授業毎に、理解度テストを実施。						
定期試験	<p>【受験資格】出席率70%以上の学生</p> <p>【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」</p>						
成績評価の 方法・基準	<p>本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 50%</li> <li>平常点（授業態度や演習への取り組み）10%</li> <li>理解度テスト 40%</li> </ul>						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書							



科目名	コミュニケーション技法 b	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	コミュニケーションの基本②「聴く」 上手な聴き方をしよう	グループワーク	グループワークを通して コミュニケーション力を 身につける
2週目	コミュニケーションの基本②「聴く」 悩みを聴く/正しく理解する	グループワーク	
3週目	コミュニケーションの基本②「聴く」 傾聴とは/聞くことの重要性	グループワーク	
4週目	コミュニケーションの基本②「聴く」 傾聴の技術	グループワーク	
5週目	コミュニケーションの基本③「対応する」 質問の重要性	グループワーク	
6週目	コミュニケーションの基本③「対応する」 質問力を身につける	グループワーク	
7週目	コミュニケーションの基本③「対応する」 賛成や反対をする	グループワーク	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
<p>AL形態の内容</p> <p>グループワーク：学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法。 2人組によるペアワークも含む。</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん
				近藤 洋一	○
対象学科 たいしょうがつか	□IG □AI ■GS □GB □IL				
科目名 かものめい	日本語コミュニケーション I a にほんご				
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 1 期 だい き	区分 くぶん	■必修□選択□必選 ひつせう せんたく ひつせん
				授業時数 じゅぎょうじすう	36 時間 じかん
授業 とうたつもくひょう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学時に一定レベル (N3) に達しない学生に対し、日本語能力が高まったと実感が持て、到達感が得られるような学習をしていき、検定試験合格レベルまで引き上げていく。</li> <li>N2合格を早期に目指せる能力に見込みのある学生は、一年次内に検定試験合格を目標とし、次のN1レベルの日本語力を身に付けられるようにしていく。</li> </ul> <p>【当期授業の到達目標】</p> <p>N3の基礎的な語彙・文法が理解でき、検定試験の問題が解けるようになる。</p>				
授業概要 じゅぎょうがいよう	教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。				
授業の 運営方法 じゅぎょう うんえいほうほう	<p>① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。</p> <p>② 授業内容確認のため問題演習を行う。</p> <p>③ Formsを活用した理解度テストを行う。</p>				
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん	<p>発話を重視した授業展開を考えています。</p> <p>クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。</p>				
理解度 テスト、課題 りかいど	毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。				
定期試験 ていきしけん	<p>【受験資格】 出席率70%以上の学生</p> <p>【試験方法】 授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。</p> <p>試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。</p>				
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%				
オフィス アワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。				
教材 きょう ざい	<p>「聞いて覚える日本語単語帳キクタンN3」株式会社アルク</p> <p>「新完全マスター単語N2重要2200語」スリーエーネットワーク</p> <p>「日本語能力試験20日で合格N3文法力アップドリル」国書刊行会</p> <p>「日本語総まとめN2文法」アスク</p>				
参考書 さんこうしょ	国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 <a href="https://www.jlpt.jp/">https://www.jlpt.jp/</a>				

科目名	日本語コミュニケーション I a	担当教員	近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	・ 実力測定試験	実力測定	入学時点の日本語能力
2週目	・ 漢字 四年生レベル①②③④ ・ 文法力アップドリルN3 1日目、2日目、3日目、4日目	発話重視の講義	検定試験を受ける上で、基礎的な日本語能力を身に付ける
3週目	・ 漢字 四年生レベル⑤⑥⑦⑧ ・ 文法力アップドリルN3 5日目、6日目、7日目、8日目	発話重視の講義	
4週目	・ 漢字 四年生レベル⑨⑩⑪⑫ ・ 文法力アップドリルN3 9日目、10日目、11日目、12日目	発話重視の講義	
5週目	・ 漢字 四年生レベル⑬⑭⑮⑯ ・ 文法力アップドリルN3 13日目、14日目、15日目、16日目	発話重視の講義	
6週目	・ 漢字 四年生レベル⑰⑱⑲⑳ ・ 文法力アップドリルN3 17日目、18日目、19日目、20日目	発話重視の講義	
7週目	総復習・予備日	事前学習型授業	
8週目	定期試験	定期試験	
9週目	試験解説を通して振り返り		
<p>AL形態の内容</p> <p>事前学習型授業:教科書/参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。</p> <p>ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。</p> <p>その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。(発話、会話を重視した授業)</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				たんとうきょういん 担当教員	じつむけいけん 実務経験
				近藤 洋一	○
たいしょうがつか 対象学科	□IG □AI ■GS □GB □IL				
かもくめい 科目名	にほんご 日本語コミュニケーション I b				
ねんじ 年次	1 年	かいこうき 開講期	だい 2 期	くぶん 区分	■必修 □選択 □必選
					じゅぎょうじすう 授業時数
					36 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学時に一定レベル (N3) に達しない学生に対し、日本語能力が高まったと実感を持って、到達感が得られるような学習をしていき、検定試験合格レベルまで引き上げていく。</li> <li>N2合格を早期に目指せる能力に見込みのある学生は、一年次内に検定試験合格を目標とし、次のN1レベルの日本語力を身に付けられるようにしていく。</li> </ul> <p>【当期授業の到達目標】</p> <p>N2の語彙・文法 (可能、条件、理由等) の表現が理解でき、検定試験の問題が解けるようになる。</p>				
じゅぎょうがいよう 授業概要	きょうかしょかいせつ もんだいえんしゅう とおし けんていしけん もんだい とける しどう 教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。				
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	<p>① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。</p> <p>② 授業内容確認のため問題演習を行う。</p> <p>③ Formsを活用した理解度テストを行う。</p>				
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	<p>発話を重視した授業展開を考えています。</p> <p>クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。</p>				
りかいど 理解度 テスト、課題	まいしゅう しゅくだい か すしんしゅつたんご かくじゅぎょうないよう ほんえい りかいど おこな 毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。				
ていきしけん 定期試験	<p>【受験資格】 出席率70%以上の学生</p> <p>【試験方法】 授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。</p> <p>試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。</p>				
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゆん 方法・基準	へいじょうてん りかいど ていきしけん 平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%				
オフィス アワー	ほうかご たいおうかのう 放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。				
きょう 教材	<p>「聞いて覚える日本語単語帳キクタンN3」株式会社アルク</p> <p>「新完全マスター単語N2重要2200語」スリーエーネットワーク</p> <p>「日本語能力試験20日で合格N3文法力アップドリル」国書刊行会</p> <p>「日本語総まとめN2文法」アスク</p>				
さんこうしょ 参考書	こくさいこうりゅうききん にほんこくさいきょういくしえんきょうかい にほんごのうりよくしけん 国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 <a href="https://www.jlpt.jp/">https://www.jlpt.jp/</a>				

科目名	日本語コミュニケーション I b	担当教員	近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	・漢字 五年生レベル①② ・日本語総まとめN2文法 第1週 1日目・2日目・3日目・4日目	発話重視の講義	検定試験を受ける上で、応用的な日本語能力を身に付ける
2週目	・漢字 五年生レベル③④ ・日本語総まとめN2文法 第1週 5日目・6日目・7日目	発話重視の講義	
3週目	・漢字 五年生レベル⑤⑥ ・日本語総まとめN2文法 第2週 1日目・2日目・3日目・4日目	発話重視の講義	
4週目	・漢字 五年生レベル⑦⑧ ・日本語総まとめN2文法 第2週 5日目・6日目・7日目	発話重視の講義	
5週目	・漢字 五年生レベル⑨⑩ ・日本語総まとめN2文法 第3週 1日目・2日目・3日目・4日目	発話重視の講義	
6週目	・漢字 五年生レベル⑪⑫ ・日本語総まとめN2文法 第3週 5日目・6日目・7日目	発話重視の講義	
7週目	総復習・予備日	事前学習型授業	
8週目	定期試験	定期試験	2学期の授業内容に関して理解度を測定する
9週目	試験解説を通して振り返り		
<p>AL形態の内容</p> <p>事前学習型授業:教科書/参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。</p> <p>ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。</p> <p>その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。(発話、会話を重視した授業)</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん
				近藤 洋一	○
対象学科 たいしょうがつか	□IG □AI ■GS □GB □IL				
科目名 かものめい	にほんご 日本語コミュニケーション I c				
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 3 期 だい き	区分 くぶん	必修 ■必修 选修 □選択 必選 □必選
					授業時数 じゅぎょうじすう
					36 時間 じかん
授業 到達目標 じゅぎょう とうたつもくひょう	<p>【最終期授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学時に一定レベル (N3) に達しない学生に対し、日本語能力が高まったと実感を持って、到達感が得られるような学習をしていき、検定試験合格レベルまで引き上げていく。</li> <li>N2合格を早期に目指せる能力に見込みのある学生は、一年次内に検定試験合格を目標とし、次のN1レベルの日本語力を身に付けられるようにしていく。</li> </ul> <p>【当期授業の到達目標】</p> <p>N2の語彙・文法（接続、勧誘、意思等）の表現が理解でき、検定試験の問題が解けるようになる。</p>				
授業概要 じゅぎょうがいよう	教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。				
授業の 運営方法 じゅぎょう うんえいほうほう	<p>① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。</p> <p>② 授業内容確認のため問題演習を行う。</p> <p>③ Formsを活用した理解度テストを行う。</p>				
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん	<p>発話を重視した授業展開を考えています。</p> <p>クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。</p>				
理解度 テスト、課題 りかいど	毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。				
定期試験 ていきしけん	<p>【受験資格】 出席率70%以上の学生</p> <p>【試験方法】 授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。</p> <p>試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。</p>				
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%				
オフィス アワー おふいす	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。				
教材 きょうざい	<p>「聞いて覚える日本語単語帳キクタンN3」株式会社アルク</p> <p>「新完全マスター単語N2重要2200語」スリーエーネットワーク</p> <p>「日本語能力試験20日で合格N3文法力アップドリル」国書刊行会</p> <p>「日本語総まとめN2文法」アスク</p>				
参考書 さんこうしょ	国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 <a href="https://www.jlpt.jp/">https://www.jlpt.jp/</a>				

科目名	日本語コミュニケーション I c	担当教員	近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	・漢字 五年生レベル⑬⑭ ・日本語総まとめN2文法 第4週 1日目・2日目・3日目・4日目	発話重視の 講義	検定試験を受ける上で、 応用的な日本語能力を身に付ける
2週目	・漢字 五年生レベル⑮⑯ ・日本語総まとめN2文法 第4週 5日目・6日目・7日目	発話重視の 講義	
3週目	・漢字 五年生レベル⑰⑱ ・日本語総まとめN2文法 第5週 1日目・2日目・3日目・4日目	発話重視の 講義	
4週目	・漢字 五年生レベル⑲⑳ ・日本語総まとめN2文法 第5週 5日目・6日目・7日目	発話重視の 講義	
5週目	・漢字 五年生レベル㉑㉒ ・J L P T 模擬試験実施(12月分)	発話重視の 講義	
6週目	・漢字 五年生レベル㉓㉔ ・日本語総まとめN2文法 第6週 1日目・2日目・3日目・4日目	発話重視の 講義	
7週目	総復習・予備日	事前学習型 授業	
8週目	定期試験	定期試験	3学期の授業内容に 関して理解度を測定する
9週目	試験解説を通して振り返り		
AL形態の内容 事前学習型授業:教科書/参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。 その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。 (発話、会話を重視した授業)			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん
				近藤 洋一		○
対象学科 たいしょうがつか	□IG □AI ■GS □GB □IL					
科目名 かちめい	日本語コミュニケーション I d にほんご					
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 4 期 だい き	区分 くぶん	必修選択必修 ■必修□選択□必修 ひつしゅう せんたく ひつせん	授業時数 じゅぎょうじすう
						36 時間 じかん
授業 到達目標 じゅぎょう とうたつもくひょう	<p>【最終期授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学時に一定レベル (N3) に達しない学生に対し、日本語能力が高まったと実感が持て、到達感が得られるような学習をしていき、検定試験合格レベルまで引き上げていく。</li> <li>N2合格を早期に目指せる能力に見込みのある学生は、一年次内に検定試験合格を目標とし、次のN1レベルの日本語力を身に付けられるようにしていく。</li> </ul> <p>【当期授業の到達目標】</p> <p>N2の語彙・文法 (断定、意見、仮定等) の表現が理解でき、検定試験の問題が解けるようになる。</p>					
授業概要 じゅぎょうがいよう	教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。					
授業の 運営方法 じゅぎょう うんえいほうほう	<p>① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。</p> <p>② 授業内容確認のため問題演習を行う。</p> <p>③ Formsを活用した理解度テストを行う。</p>					
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん からの メッセージ	<p>発話を重視した授業展開を考えています。</p> <p>クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。</p>					
理解度 テスト りかいど テスト	毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。					
定期試験 ていきしけん	<p>【受験資格】 出席率70%以上の学生</p> <p>【試験方法】 授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。</p> <p>試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。</p>					
成績評価 の方法・基準 せいせきひょうか の ほうほう きじゆん	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%					
オフィス アワー おふいす アワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。					
教材 きょうざい 教材	<p>「聞いて覚える日本語単語帳キクタンN3」株式会社アルク</p> <p>「新完全マスター単語N2重要2200語」スリーエーネットワーク</p> <p>「日本語能力試験20日で合格N3文法力アップドリル」国書刊行会</p> <p>「日本語総まとめN2文法」アスク</p>					
参考書 さんこうしょ	国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 https://www.jlpt.jp/					



科目名	日本語コミュニケーション I d	担当教員	近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	・漢字 六年生レベル①② ・日本語総まとめN2文法 第6週5日目・6日目・7日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	検定試験を受ける上で の、応用的な日本語能力 を身に付ける
2週目	・漢字 六年生レベル③④ ・日本語総まとめN2文法 第7週1日目・2日目・3 日目・4日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
3週目	・漢字 六年生レベル⑤⑥ ・日本語総まとめN2文法 第7週5日目・6日目・7日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
4週目	・漢字 六年生レベル⑦⑧ ・日本語総まとめN2文法 第8週1日目・2日目・3 日目・4日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
5週目	・漢字 六年生レベル⑨⑩ ・日本語総まとめN2文法 第8週5日目・6日目・7日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
6週目	・漢字 六年生レベル⑪⑫ ・読解演習	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
7週目	総復習・予備日	事前学習型 授業	
8週目	定期試験	定期試験	4学期の授業内容に 関して理解度を測定する
9週目	試験解説を通して振り返り		
<p>AL形態の内容</p> <p>事前学習型授業:教科書/参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。</p> <p>ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演じさせるを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。</p> <p>その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。(発話、会話を重視した授業)</p>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				富永 英世	○
				瀬戸 幸司	○
				佐竹 真彰	○
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL			三輪 基敦	○
科目名	キャリアデザイン I a			近藤 洋一	
年次	1 年	開講期	第 1 期	区分	■必修□選択□必選
				授業時数	18 時間
授業 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】          仕事に就くという目標に向かって、はっきりとした未来像や考えを持ち、自分の能力・適性を見極めて、どんな会社でどのような仕事をしたいかを十分に理解する。</p> <p>【当期授業の到達目標】          就職活動とは何かを理解し、就職活動に必要なものを理解する。</p>				
授業概要	<p>何のために就職するのか、どんな会社を目指せばよいのか。就職活動を始めるにあたり、社会に出て働くことの意義について考えていく。</p>				
授業の 運営方法	<p>就職活動の対策を具体的に段階的に解説していく。          就職活動に必要なもの、就職活動のあらまし、就職試験とその対策、内定とその対応・対策について、手を動かし、考えながら進めていく。</p>				
担当教員 からの メッセージ	<p>専門学校は、資格を取得して就職することを目的としている。就職するためには、日本の新卒採用形態、採用スケジュール、選考について理解し、適切に準備することが肝要である。どのようにして職業・企業を選択すべきかを判断するために必要な知識を習得し、万全な状態で就職活動に臨んでいただきたい。</p>				
理解度 テスト、課題	<p>毎回Formsによる確認テストを実施する。</p>				
定期試験	<p>【受験資格】 出席率70%以上の学生          【試験方法】 「筆記試験」または「フォームによる試験」</p>				
成績評価の 方法・基準	<p>本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 50%</li> <li>平常点（授業態度や演習への取り組み）10%</li> <li>理解度テスト 40%</li> </ul>				
オフィス アワー	<p>放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。</p>				
教材	<p>クラスルームに配布する電子テキスト</p>				
参考書					

科目名	キャリアデザイン I a	担当教員	富永・瀬戸・佐竹 三輪・近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	就職とは何か、企業が求める人材像を知る。 自己分析1(自分モチベーション分析シート)	調査学習、プレゼンテーション	
2週目	自分の行動や考えの長所と短所を理解する 自己分析2(自分の長所・短所、他社からの評価など)	調査学習、プレゼンテーション	
3週目	学校生活にどのような目的を持って、どのように取り組んできたかを整理する(AIDMAシート)	調査学習、プレゼンテーション	就職活動のあらまし、就職試験とその対策、
4週目	将来ビジョンの立て方を学ぶ 自分に適する業界・会社を知る(業界・職種調査)	調査学習、プレゼンテーション	内定とその対応・対策について、手を動かし考えながら進めていく。
5週目	自分に適する仕事を選ぶ 志望理由(志望する企業、志望する仕事)を整理する	調査学習、プレゼンテーション	
6週目	インターンシップについて インターンシップ参加で身につけるポイント	調査学習、プレゼンテーション	
7週目	総復習(定期試験対策)	調査学習、プレゼンテーション	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
<p>アクティブラーニングの類型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。</li> <li>プレゼンテーション…学生がスライド等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</li> </ul>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				富永 英世	○
				瀬戸 幸司	○
				佐竹 真彰	○
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL			三輪 基敦	○
科目名	キャリアデザイン I b			近藤 洋一	
年次	1 年	開講期	第 2 期	区分	■必修□選択□必選
				授業時数	18 時間
授業到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】</p> <p>仕事に就くという目標に向かって、はっきりとした未来像や考えを持ち、自分の能力・適性を見極めて、どんな会社でどのような仕事をしたいかを十分に理解する。</p> <p>【当期授業の到達目標】</p> <p>就職活動の計画を立て、応募書類の書き方、会社説明会の参加方法などを理解する。</p>				
授業概要	<p>何のために就職するのか、どんな会社を目指せばよいのか。就職活動を始めるにあたり、社会に出て働くことの意義について考えていく。</p>				
授業の運営方法	<p>就職活動の対策を具体的に段階的に解説していく。</p> <p>就職活動に必要なもの、就職活動のあらまし、就職試験とその対策、内定とその対応・対策について、手を動かし、考えながら進めていく。</p>				
担当教員からのメッセージ	<p>専門学校は、資格を取得して就職することを目的としている。就職するためには、日本の新卒採用形態、採用スケジュール、選考について理解し、適切に準備することが肝要である。どのようにして職業・企業を選択すべきかを判断するために必要な知識を習得し、万全な状態で就職活動に臨んでいただきたい。</p>				
理解度テスト、課題	<p>毎回Formsによる確認テストを実施する。</p>				
定期試験	<p>【受験資格】 出席率70%以上の学生</p> <p>【試験方法】 「筆記試験」または「フォームによる試験」</p>				
成績評価の方法・基準	<p>本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 50%</li> <li>平常点（授業態度や演習への取り組み） 10%</li> <li>理解度テスト 40%</li> </ul>				
オフィスアワー	<p>放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。</p>				
教材	<p>クラスルームに配布する電子テキスト</p>				
参考書					

科目名	キャリアデザイン b	担当教員	富永・瀬戸・佐竹 三輪・近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	企業の採用活動と就職活動を理解する 企業の動きと学生の動き(就職スケジュール計画表)	調査学習、プレゼンテーション	
2週目	就職活動の計画を立てる 就職活動ノートの作成(就職活動ノート・求人票)	調査学習、プレゼンテーション	
3週目	応募書類を書いてみる① 履歴書の書き方・ポイント(企業研究シート・履歴書)	調査学習、プレゼンテーション	就職活動のあらまし、就職試験とその対策、内定とその対応・対策について、手を動かし考えながら進めていく。
4週目	応募書類を書いてみる② 身上書の書き方・ポイント(身上書・封筒の書き方)	調査学習、プレゼンテーション	
5週目	会社説明会に参加する① エントリーシートの作成(AIDMAエントリーシート)	調査学習、プレゼンテーション	
6週目	会社説明会に参加する② エントリーシートの作成(エントリーシート)	調査学習、プレゼンテーション	
7週目	総復習(定期試験対策)	調査学習、プレゼンテーション	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
<p>アクティブラーニングの類型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。</li> <li>プレゼンテーション…学生がスライド等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</li> </ul>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				富永 英世	○
				瀬戸 幸司	○
				佐竹 真彰	○
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL			三輪 基敦	○
科目名	キャリアデザイン I c			近藤 洋一	
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	■必修□選択□必選
				授業時数	18 時間
授業到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】          仕事に就くという目標に向かって、はっきりとした未来像や考えを持ち、自分の能力・適性を見極めて、どんな会社でどのような仕事をしたいかを十分に理解する。</p> <p>【当期授業の到達目標】          就職試験とその対策方法を理解する。</p>				
授業概要	<p>何のために就職するのか、どんな会社を目指せばよいのか。就職活動を始めるにあたり、社会に出て働くことの意義について考えていく。</p>				
授業の運営方法	<p>就職活動の対策を具体的に段階的に解説していく。          就職活動に必要なもの、就職活動のあらまし、就職試験とその対策、内定とその対応・対策について、手を動かし、考えながら進めていく。</p>				
担当教員からのメッセージ	<p>専門学校は、資格を取得して就職することを目的としている。就職するためには、日本の新卒採用形態、採用スケジュール、選考について理解し、適切に準備することが肝要である。どのようにして職業・企業を選択すべきかを判断するために必要な知識を習得し、万全な状態で就職活動に臨んでいただきたい。</p>				
理解度テスト、課題	<p>毎回Formsによる確認テストを実施する。</p>				
定期試験	<p>【受験資格】出席率70%以上の学生          【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」</p>				
成績評価の方法・基準	<p>本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 50%</li> <li>平常点（授業態度や演習への取り組み）10%</li> <li>理解度テスト 40%</li> </ul>				
オフィスアワー	<p>放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。</p>				
教材	<p>クラスルームに配布する電子テキスト</p>				
参考書					

科目名	キャリアデザイン c	担当教員	富永・瀬戸・佐竹 三輪・近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	作文試験とその対策 作文(テーマ:学生時代に打ち込んだこと)	調査学習、プレゼンテーション	
2週目	一般常識試験とその対策 問題 (サンプル問題の解答と答え合わせ)	調査学習、プレゼンテーション	
3週目	SPI試験とその対策 問題 (サンプル問題の解答と答え合わせ)	調査学習、プレゼンテーション	
4週目	面接試験とその対策① 練習 (質疑応答例、面接練習)	調査学習、プレゼンテーション	就職活動のあらまし、 就職試験とその対策、 内定とその対応・対策に ついて、手を動かし考え ながら進めていく。
5週目	面接試験とその対策② 練習 (質問に対する回答の作成)	調査学習、プレゼンテーション	
6週目	内定後の過ごし方 礼状の書き方 (礼状)	調査学習、プレゼンテーション	
7週目	総復習(定期試験対策)	調査学習、プレゼンテーション	
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
<p>アクティブラーニングの類型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。</li> <li>プレゼンテーション…学生がスライド等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</li> </ul>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				富永 英世	○
				瀬戸 幸司	○
				佐竹 真彰	○
対象学科	■IG ■AI ■GS □GB □IL			三輪 基敦	○
科目名	キャリアデザイン I d			近藤 洋一	
年次	1 年	開講期	第 4 期	区分	■必修□選択□必選
				授業時数	18 時間
授業到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】          仕事に就くという目標に向かって、はっきりとした未来像や考えを持ち、自分の能力・適性を見極めて、どんな会社でどのような仕事をしたいかを十分に理解する。</p> <p>【当期授業の到達目標】          就職活動支援サイトの登録、履歴書の準備、就職試験対策など行う。</p>				
授業概要	<p>何のために就職するのか、どんな会社を目指せばよいのか。就職活動を始めるにあたり、社会に出て働くことの意義について考えていく。</p>				
授業の運営方法	<p>就職活動の対策を具体的に段階的に解説していく。          就職活動に必要なもの、就職活動のあらまし、就職試験とその対策、内定とその対応・対策について、手を動かし、考えながら進めていく。</p>				
担当教員からのメッセージ	<p>専門学校は、資格を取得して就職することを目的としている。就職するためには、日本の新卒採用形態、採用スケジュール、選考について理解し、適切に準備することが肝要である。どのようにして職業・企業を選択すべきかを判断するために必要な知識を習得し、万全な状態で就職活動に臨んでいただきたい。</p>				
理解度テスト、課題	<p>毎回Formsによる確認テストを実施する。</p>				
定期試験	<p>【受験資格】 出席率70%以上の学生          【試験方法】 「筆記試験」または「フォームによる試験」</p>				
成績評価の方法・基準	<p>本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 50%</li> <li>平常点（授業態度や演習への取り組み）10%</li> <li>理解度テスト 40%</li> </ul>				
オフィスアワー	<p>放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。</p>				
教材	<p>クラスルームに配布する電子テキスト</p>				
参考書					



科目名	キャリアデザイン I d	担当教員	富永・瀬戸・佐竹 三輪・近藤
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	就職活動支援サイトの活用 (就職活動支援サイト登録)	調査学習、プレゼンテーション	
2週目	就職活動準備① (履歴書作成)	調査学習、プレゼンテーション	
3週目	就職活動準備② (適性検査対策①)	調査学習、プレゼンテーション	
4週目	就職活動準備③ (適性検査対策②)	調査学習、プレゼンテーション	就職活動のあらし、就職試験とその対策、内定とその対応・対策について、手を動かし考えながら進めていく。
5週目	就職活動準備④ (適性検査対策③)	調査学習、プレゼンテーション	
6週目	就職活動準備⑤ (適性検査対策④)	調査学習、プレゼンテーション	
7週目	総復習(定期試験対策)	調査学習、プレゼンテーション	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
<p>アクティブラーニングの類型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。</li> <li>プレゼンテーション…学生がスライド等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</li> </ul>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん
				富永 英世	○
				瀬戸 幸司	○
				佐竹 真彰	○
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI ■GS ■GB □IL			三輪 基敦	○
科目名 かものめい	基礎ゼミ a きそ			近藤 洋一	○
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 1 期 だい き	区分 くぶん	■必修□選択□必選 ひつせう せんたく ひつせん
				授業時数 じゅぎょうじすう	9 時間 じかん
授業 とうたつものくひょう 到達目標	<p>【最終期授業の到達目標】 学校のルールを理解する。クラス内のコミュニケーションを円滑にする。目標を確認する。</p> <p>【当期授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導、連絡事項の周知、確認</li> <li>チームビルディングを通して、クラス内コミュニケーションの円滑化を図る。</li> </ul>				
授業概要 じゅぎょうがいよう	<p>学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る。</p>				
授業の 運営方法 じゅぎょう うんえいほうほう	<p>個人紹介、ペア紹介、グループ紹介、ミーティングでコミュニケーションを図る。 積極的に会話をさせることで話す力、聴く力を自然に身につけさせる。 個人の目標、グループの目標を掲げ、クリアさせることで充実感を得る。</p>				
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん	<p>社会に出る準備を整えるために様々な課題を出します。 何事にも積極的にチャレンジして学校生活を充実させましょう。 学校を楽しみましょう。</p>				
理解度 テスト、課題 りかいど	<p>毎回Formsによる確認テストを実施する。</p>				
定期試験 ていきしけん	<p>【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「発表」または「フォームによる試験」</p>				
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	<p>本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 50%</li> <li>平常点（授業態度や演習への取り組み）10%</li> <li>理解度テスト 40%</li> </ul>				
オフィス アワー	<p>放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。</p>				
教材 きょうざい	<p>クラスルームに配布する電子テキスト</p>				
参考書 さんこうしょ					

科目名	基礎ゼミ a	担当教員	富永・瀬戸・佐竹 三輪・近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	学修生活のルール 自己紹介の仕方(自分紹介、相手紹介)	問題解決型 学習	
2週目	今期・今年度目標設定(チャレンジ検定・就職先) スケジュールリング(ゴールから逆算)	問題解決型 学習	
3週目	今後の予定確認 グループ分け・研究テーマ(目的)設定	調査学習	
4週目	今後の予定確認 企画書作成・調査開始	調査学習	学生が安心して学習できる 雰囲気をつくる
5週目	今後の予定確認 プレゼン資料作成(研究テーマ・計画について)	プレゼンテー ション	
6週目	今後の予定確認 プレゼン練習(研究テーマ・計画について)	プレゼンテー ション	
7週目	今後の予定確認 プレゼンテーション(研究テーマ・計画について)	プレゼンテー ション	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	フィードバック(課題まとめ)	問題解決型 学習	
<p>アクティブラーニングの類型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決型学習: 学生が自ら課題を見つけ、その課題を解決するまでの過程でさまざまな知識を得ていく。</li> <li>調査学習… 学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。</li> <li>プレゼンテーション… 学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</li> </ul>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん
				富永 英世	○
				瀬戸 幸司	○
				佐竹 真彰	○
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI ■GS □GB □IL			三輪 基敦	○
科目名 かものめい	基礎ゼミ b きそ			近藤 洋一	
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 2 期 だい き	区分 くぶん	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 必選 ■必修 □選択 □必選
授業 とうたつものくひょう	【最終期授業の到達目標】 研究テーマについて計画を通りに調査などを実施し、結果を発表する。 【当期授業の到達目標】 ・生活指導、連絡事項の周知、確認 ・チームビルディングを通して、クラス内コミュニケーションの円滑化を図る			授業時数 じゅぎょうじすう	9 時間 じかん
授業概要 じゅぎょうがいよう	学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る。				
授業の うんえいほうほう	個人紹介、ペア紹介、グループ紹介、ミーティングでコミュニケーションを図る。 積極的に会話をさせることで話す力、聴く力を自然に身につけさせる。 個人の目標、グループの目標を掲げ、クリアさせることで充実感を得る。				
担当教員 からの メッセージ	社会に出る準備を整えるために様々な課題を出します。 何事にも積極的にチャレンジして学校生活を充実させましょう。 学校を楽しみましょう。				
理解度 テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。				
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「発表」または「フォームによる試験」				
成績評価の 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% (成果物+試験) ・平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% ・理解度テスト 40%				
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	クラブルームに配布する電子テキスト				
参考書					

科目名	基礎ゼミ b	担当教員	富永・瀬戸・佐竹 三輪・近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	今後の予定確認 研究テーマ実施計画確認	調査学習	
2週目	今後の予定確認 計画実施 (調査)	調査学習	
3週目	今後の予定確認 計画実施 (調査)	調査学習	
4週目	今後の予定確認 計画実施 (調査)	調査学習	クラスの雰囲気をよくする。 学生が安心して学習できる 雰囲気をつくる
5週目	今後の予定確認 プレゼン資料作成 (調査報告)	プレゼンテーション	
6週目	今後の予定確認 プレゼン練習 (調査報告)	プレゼンテーション	
7週目	今後の予定確認 プレゼンテーション (調査報告)	プレゼンテーション	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	フィードバック (課題まとめ)	問題解決型 学習	
<p>アクティブラーニングの類型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決型学習: 学生が自ら課題を見つけ、その課題を解決するまでの過程でさまざまな知識を得ていく。</li> <li>調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。</li> <li>プレゼンテーション…学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</li> </ul>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん
				富永 英世	○
				瀬戸 幸司	○
				佐竹 真彰	○
				三輪 基敦	○
				近藤 洋一	
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI ■GS □GB □IL				
科目名 かものめい	基礎ゼミ c きそゼミ c				
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 3 期 だい 3 き	区分 くぶん	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 必選 ■必修 □選択 □必選
					授業時数 じゅぎょうじすう
					9 時間 じかん
授業 とうたつものくひょう 到達目標	<b>【最終期授業の到達目標】</b> 研究テーマについて計画を通りに調査などを実施し、結果を発表する。 <b>【当期授業の到達目標】</b> ・生活指導、連絡事項の周知、確認 ・調査した結果をまとめ、研究成果を発表する				
授業概要 じゅぎょうがいよう	学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る。				
授業の うんえいほうほう 運営方法	個人紹介、ペア紹介、グループ紹介、ミーティングでコミュニケーションを図る。 積極的に会話をさせることで話す力、聴く力を自然に身につけさせる。 個人の目標、グループの目標を掲げ、クリアさせることで充実感を得る。				
担当教員 からの メッセージ	社会に出る準備を整えるために様々な課題を出します。 何事にも積極的にチャレンジして学校生活を充実させましょう。 学校を楽しみましょう。				
理解度 テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。				
定期試験	<b>【受験資格】</b> 出席率70%以上の学生 <b>【試験方法】</b> 「発表」または「フォームによる試験」				
成績評価の ほうほう 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% (成果物+試験) ・平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% ・理解度テスト 40%				
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	クラスルームに配布する電子テキスト				
参考書					

科目名	基礎ゼミ c	担当教員	富永・瀬戸・佐竹 三輪・近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	今後の予定確認 研究テーマ実施計画確認	調査学習	
2週目	今後の予定確認 計画実施 (実施)	調査学習	
3週目	今後の予定確認 計画実施 (実施)	調査学習	
4週目	今後の予定確認 計画実施 (実施)	調査学習	クラスの雰囲気をよくする。 学生が安心して学習できる 雰囲気をつくる
5週目	今後の予定確認 プレゼン資料作成 (実施報告)	プレゼンテーション	
6週目	今後の予定確認 プレゼン練習 (実施報告)	プレゼンテーション	
7週目	今後の予定確認 プレゼンテーション (実施報告)	プレゼンテーション	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	フィードバック (課題まとめ)	問題解決型 学習	
<p>アクティブラーニングの類型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決型学習: 学生が自ら課題を見つけ、その課題を解決するまでの過程でさまざまな知識を得ていく。</li> <li>調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。</li> <li>プレゼンテーション…学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</li> </ul>			

れいわ ねんど  
令和 5 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん
				富永 英世	○
				瀬戸 幸司	○
				佐竹 真彰	○
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI ■GS □GB □IL			三輪 基敦	○
科目名 かものめい	基礎ゼミ d きそ			近藤 洋一	○
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 4 期 だい き	区分 くぶん	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 必選 ■必修 □選択 □必選
授業 とうたつもくひょう	【最終期授業の到達目標】 研究テーマについて計画を通りに調査などを実施し、結果を発表する。 【当期授業の到達目標】 ・生活指導、連絡事項の周知、確認 ・実施結果から改善点をまとめフィードバックする			授業時数 じゅぎょうじすう	9 時間 じかん
授業概要 じゅぎょうがいよう	学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る。				
授業の 運営方法 じゅぎょう うんえいほうほう	個人紹介、ペア紹介、グループ紹介、ミーティングでコミュニケーションを図る。 積極的に会話をさせることで話す力、聴く力を自然に身につけさせる。 個人の目標、グループの目標を掲げ、クリアさせることで充実感を得る。				
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん からの メッセージ	社会に出る準備を整えるために様々な課題を出します。 何事にも積極的にチャレンジして学校生活を充実させましょう。 学校を楽しみましょう。				
理解度 テスト、課題 りかいど テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。				
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「発表」または「フォームによる試験」				
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか ほうほう きじゆん ほうほう・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% (成果物+試験) ・平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% ・理解度テスト 40%				
オフィス アワー おふいす アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材 きょうざい 教材	クラスルームに配布する電子テキスト				
参考書 さんこうしょ					



科目名	基礎ゼミ d	担当教員	富永・瀬戸・佐竹 三輪・近藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	今後の予定確認 研究テーマ実施計画確認	調査学習	
2週目	今後の予定確認 フィードバック（課題の洗い出し）	調査学習	
3週目	今後の予定確認 フィードバック（改善策まとめ）	調査学習	
4週目	今後の予定確認 フィードバック（改善策まとめ）	調査学習	クラスの雰囲気をよくする。 学生が安心して学習できる 雰囲気をつくる
5週目	今後の予定確認 プレゼン資料作成（フィードバック報告）	プレゼンテーション	
6週目	今後の予定確認 プレゼン練習（フィードバック報告）	プレゼンテーション	
7週目	今後の予定確認 プレゼンテーション（フィードバック報告）	プレゼンテーション	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	フィードバック（課題まとめ）	問題解決型 学習	
<p>アクティブラーニングの類型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決型学習: 学生が自ら課題を見つけ、その課題を解決するまでの過程でさまざまな知識を得ていく。</li> <li>調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。</li> <li>プレゼンテーション…学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。</li> </ul>			